



豊川市桜町連区長
鈴木 智彦

ごあいさつ

令和5年6月2日、台風2号接近に伴う豪雨により、豊川市では特に蔵子、小田渕、桜町に被害が集中しました。過去に例のない記録的な大雨は、佐奈川、白川、西古瀬川、諏訪川の越水氾濫が被害を引き起こし、多くの床上浸水、床下浸水、自動車水没、道路の冠水等が発生しました。

これら一連の災害による被害は、これまで経験したことのない甚大なものとなり、被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。

桜町消防団、消防団OB、連区役員等、多くの皆様の救助活動により、人的被害が発生しなかった事に改めて心より感謝申し上げます。

また、災害対策本部の指示により避難所を桜町地区市民館に開設、その後、線状降水帯の集中豪雨により、道路が一挙に冠水し、運行不可能な車が続出しました。桜町地区市民館では対応できず急遽、桜町消防団、OBの判断により桜町小学校体育館を開放し100名ほどの避難者を受け入れました。その後、市職員の避難所対策員に引き継がれ、避難者の中には市外、関東、関西方面の方々もおり、対応に感謝していました。しかし、災害時の避難所受け入れには多くの課題も残しました。

自動車水没被害を防ぐために、車の避難場所としてイオンモール豊川が屋上駐車場を開放して頂きました。その他にもスギ薬局など多くの事業所の駐車場を利用させていただき、ご理解、ご協力ありがとうございました。

なお、この豪雨で非常に役に立ったのは、スマートフォン等を活用したインターネットでした。現場の状況等をいち早く知らせるなどお互いが情報交換し、現状を知り問題解決に役に立ちました。その後、防災リーダーの努力などで各町内にセーフティネットが立ち上がり、現在多くの方が利用されています。災害発生後、市関係機関の素早い対応、また多くのボランティアの方々が駆けつけていただき被災者宅の整理、災害ごみ搬出等に協力いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

こうした中、この災害の記憶を風化させることなく、この教訓を次世代に継承することを目的に被害状況や災害対応など取りまとめた災害記録誌を作成しました。近年各地で大規模な災害が発生しており、多くの人命や財産が失われています。本誌が皆様の参考として将来にわたる防災・減災対策の一助となりますことを強く願いまして発刊のご挨拶とさせていただきます。

最後になりましたが、本誌作成に当たり、取材対応や原稿作成、画像提供等いただきました全ての関係各位に対し心から感謝申し上げます。

令和5年 12月2日

豊川市桜町連区長
鈴木 智彦



豊川市長
竹本 幸夫

記録誌発刊にあたり

豊川市は令和5年6月2日から3日にかけて、台風2号の接近に伴う梅雨前線の活発化により線状降水帯が発生し、24時間雨量が400ミリのを超える観測史上最大の豪雨となりました。桜町地区では白川や西古瀬川、佐奈川、諏訪川の越水、内水氾濫により、住家の浸水や自動車の水没被害が発生しました。市内全体で約500件以上の住家の浸水や1000台を超える自動車の水没被害を確認していますが、その大半が桜町地区周辺に集中しました。被害に遭われたすべての皆様に心からお見舞い申し上げます。

今回の記録的な豪雨災害では、発災直後から消防、警察、市民の皆様とともに懸命の救助・避難誘導活動を実施するとともに、河川等の応急復旧、災害廃棄物や土砂の処理等に国・県等の関係機関等と連携して取り組みましたが、本市には災害情報の収集・集約をはじめ、被災者に寄り添った支援や内水氾濫対策など多くの課題があることが分かりました。

被災後に鈴川智彦連区長はじめ連区役員の皆様が市役所を訪問され、今回の豪雨災害について被災状況や災害対応等のお話を伺いましたが、床下浸水被害や自動車等水没被害に対する見舞金の支給といった新しい被災者への支援施策については、この時をきっかけに臨時市議会でも予算措置をさせていただきました。これからも安全・安心なまちづくりのため、河川監視カメラの増設や雨水浸透施設の整備、内水ハザードマップの作成、風水害に強い無電柱化事業の推進などを行い、災害に強い豊川市を作り上げていきたいと考えております。

桜町連区の皆様におかれましては、災害発生直後から河川の水位や道路の浸水状況をはじめとした情報の共有や、消防団による帰宅困難者の救援・避難所への誘導、災害ボランティアへの宿泊場所の提供など、常日頃から防災において重要とされている「共助」が実践されていきました。これからも、地域の深まりを大切にされている桜町連区の皆様が、しっかりとした地域コミュニティを形成し続けることで、「共助」の精神が次世代に引き継がれていくことを祈念いたします。

最後に、今回の災害対応でご協力をいただきました桜町連区の皆様に、心より感謝を申し上げます。

令和5年 12月 2日

豊川市長
竹本 幸夫



豊川市議会議員
星川 博文

記録誌発刊にあたり

令和5年6月2日から3日にかけて、台風2号の接近に伴う梅雨前線の活発化により線状降水帯が発生しました。24時間雨量が400ミリのを超える過去に、経験したことのない大雨となり、多くの被害を、桜町校区にもたらしました。被災された全ての皆様に心からお見舞い申し上げます。

今回の大雨で6月2日の午後4ごろから、内水氾濫により、小田渕の工業団地内において、車の水没を避けるため、交通整理を行い、市役所に連絡を取るなど対応していましたが、避難勧告が発令するころには、家の外に出ることさえ出来ず、避難所に向かうことすらかなわない状況でした。

そのような状況の中、鈴川連区長をはじめとする役員の皆様が、桜町地区市民館を避難所として開設頂き、また、消防団、消防団OBの皆様が、道路冠水により水没する車が続出し、桜町地区市民館には案内しきれないと、機転をきかせ、ずぶ濡れになりながら救出する中で、桜町小学校体育館を避難所として開設して頂きました。

こころより、敬意と感謝を申し上げます。改めて、桜町連区の公助に対する地域コミュニティの強さを感じました。これも、日頃より実施して頂いている防災訓練の賜物だと思います。

今回発刊して頂く、豪雨災害記録誌は、桜町連区に住む皆様にとって、防災、減災のバイブルの様な存在になると確信しております。この様な記録誌を発刊していただいた連区長をはじめとする、桜町連区の役員の皆様に心より感謝いたします。

私も、地元市議会議員として、桜町連区の皆様の、声をお聴きし、今後もしっかり届けてまいりたいと思います。

最後に、今回の災害対策でご協力いただいた、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和5年 12月 2日

豊川市議会議員
星川 博文



イオンモール豊川前のさくら広場に、桜町小学校の児童らが植えた桜「ジンダイアケボノ」。
6月2日の大雨でここも冠水したが、桜は順調に育っており、春には綺麗な花を咲かすだろう

降り続く雨、 上がり続ける川の水位



6月2日午後、冠水した国道1号「京次」交差点



交差点「桜町1丁目」付近、元気薬局前でも冠水が発生



水位が上昇した西古瀬川（国道1号の橋付近）

迫りくる濁流、**恐怖**の一夜



車が走行できないほどの高さまでに浸水した住宅街（午後9時半ごろ）



名鉄・小田渕駅前も水に浸かった



多くの人が身を寄せた桜町小学校の体育館



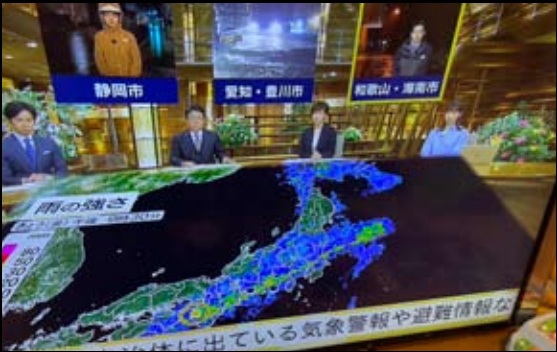
増水した白川。後方はイオンモール豊川



桜町地区市民館前も冠水した



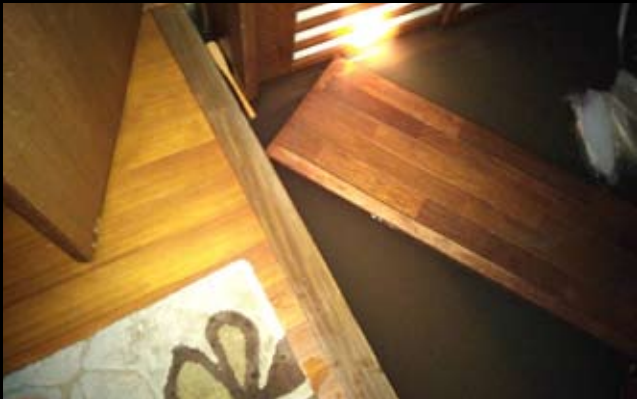
←午後10時20分ごろ、スマートフォンにも市内全域が対象の警戒レベル5（緊急安全確保）が配信された



「報道ステーション」は番組冒頭で豊川市内からの生中継を報じた



冠水した小田渕の住宅地



住宅で、床上にまで迫る浸水



交差点「桜町」付近は渋滞が発生した

日が昇り、次々と明らかになる爪痕



広い範囲で浸水した小坂井地区（豊川市によるドローン撮影）



小坂井町ではなかなか水が引かず、多くの車が放置された



蔵子でも複数の車が動かなくなった



桜町地区市民館前で路肩に移動させられる車



一夜明けた佐奈川。草木が押し流された痕跡が残る



コイン精米機も水の力で押し流された（蔵子）



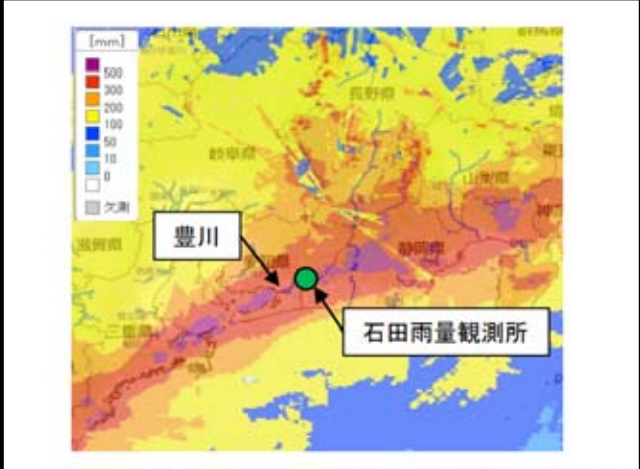
アパートの重いガスボンベも押し倒された（蔵子）



←冠水した道路を大型トラックが通行した余波による柵の破壊（蔵子）



篠束野口線でも泥水と車が道路に残された→



線状降水帯が発生したことを示すこの地方の雨量



寄付公園に集められた災害ごみ

苦難を乗り越え、歩み出した人々



白川の念仏橋付近に新たに設置された河川監視カメラ



浸水した家屋でのボランティアによる復興作業



10月の防災訓練には子どもからお年寄りまでが参加した（桜町小学校）

令和5年6月 豪雨災害記録誌 ◆ 目次 ◆

◆第一章◆ 東三河豪雨の概要

ドキュメント東三河豪雨	13
東三河豪雨の概要	15
豊川市における被害状況	20
豊川市の町内別被害戸数	21
豊川消防署における災害対応件数	22
大雨災害対応件数内訳	23
大雨災害対応件数内訳（その他災害）	24

◆第二章◆ 桜町連区の対応と復興のあゆみ

桜町連区の対応と復興のあゆみ	26
体験手記	30
コラム ～サクラマチ消防団の奮闘～	43
イオンモール豊川備忘録	45
コラム ～イオンモールの支援～	47
ボランティアコーディネートの実績	48

◆第三章◆ 桜町連区の働きかけ

桜町連区の働きかけ	52
コラム ～故郷を勇気づけるアスリートたち～	54

◆第四章◆ 次の災害に備える

次の災害に備える	56
コラム ～ハザードマップの死角～	61
さまざまな防災対策	62
豊川市内の河川ライブカメラ（リンク一覧）	64
避難所一覧表	65

第一章

東三河豪雨の概要

ドキュメント 東三河豪雨

6月2日

◆9時10分、佐奈川と音羽川の水位が水防団待機水位を越えたため、災害対策本部を設置。

◆10時43分、名古屋地方気象台が大雨警報（浸水害・土砂災害）、洪水警報（警戒レベル3）を発令。

◆12時40分、大雨による河川被害（豊川、音羽川、佐奈川）の懸念があるため、風水害避難所（25カ所）を開設。
自主避難者は、食料や水・毛布などの生活用品を各自で用意。
開設避難所＝豊川生涯学習センター、東部小学校、古宿地区市民館、桜木地区市民館、金屋地区市民館、三蔵子地区市民館、中部西地区市民館、牛久保生涯学習センター、中条地区市民館、代田地区市民館、桜町地区市民館、八南生涯学習センター、千両小学校、平尾地区市民館、国府市民館、御油生涯学習センター、一宮東部小学校、一宮西部小学校、長慶寺、赤坂台地区市民館、萩地区市民館、長沢地区市民館、西方地区市民館、広石地区市民館、小坂井生涯学習センター

◆13時10分、豊川の水位上昇により、金沢霞地区・賀茂霞地区の970世帯2649人に警戒レベル3（高齢者等避難）を発令。

◆14時20分、豊川の水位上昇により、金沢霞地区・賀茂霞地区の970世帯2649人に警戒レベル4（避難指示）を発令。

◆15時00分、音羽川の水位上昇により、音羽川流域の2万3656世帯5万6834人に警戒レベル4（避難指示）を発令。

◆16時20分、豊川の水位上昇により、豊川流域（霞地区を除く）の1万9724世帯4万7314人に警戒レベル3（高齢者等避難）を発令。

◆17時50分、国土交通省が豊川放水路に警戒レベル4（氾濫危険水位）発令。

◆18時00分、豊川放水路の水位上昇により、豊川放水路流域の1万9139世帯2万4995人に警戒レベル4（避難指示）を発令。

◆19時00分、佐奈川の水位上昇により、佐奈川流域の1万9139世帯4万3917人に警戒レベル4（避難指示）を発令。

◆19時25分、気象庁と愛知県が土砂災害警戒情報を発令。

◆19時30分、佐奈川で氾濫している可能性があるとして、佐奈川流域の1万9139世帯4万3917人に警戒レベル5（緊急安全確保）を発令。

◆20時00分、土砂災害警戒情報により、豊川市全域のがけ地付近7万9651世帯18万9021人に警戒レベル4（避難指示）を発令。

◆ 20 時 18 分、豊川市が公式ツイッター（現・X）でも災害情報の配信をスタート。

◆ 21 時 54 分、テレビ朝日番組「報道ステーション」の冒頭ニュースで、豊川市の浸水現場から生中継。

◆ 22 時 22 分、豊川市内各所で浸水被害や土砂崩れが発生しているとして、豊川市全域のがけ地付近 7 万 9 6 5 1 世帯 18 万 9 0 2 1 人に警戒レベル 5（緊急安全確保）を発令。

◆ 23 時 43 分、豊川市が 3 日に市文化会館で予定していた市制施行 80 周年記念式典の中止を発表。

3 日

◆ 4 時 25 分、名古屋地方気象台が洪水警報を解除、大雨警報（土砂災害）は継続。

◆ 6 時 00 分、豊川市全域のレベル 5（緊急安全確保）を解除。豊川放水路流域地区、豊川市内のがけ地周辺についてはレベル 4（避難指示）を継続。

◆ 6 時 20 分、豊川市内がけ地周辺のレベル 4（避難指示）を解除。豊川放水路流域地区の避難指示は継続。

◆ 6 時 34 分、名古屋地方気象台が大雨警報（土砂災害）を解除。

◆ 11 時 10 分、豊川放水路周辺地区のレベル 4（避難指示）を解除。豊川市内に出されていた避難情報はすべて解除。

4 日

◆ 9 時 00 分、豊川市内の避難所をすべて閉鎖し、災害対策本部を廃止。

東三河豪雨の概要

この地方では観測史上初めて発生したとされる線状降水帯により、過去に例を見ない記録的な雨量を観測した、令和 5 年 6 月 2 日の豪雨。東三河や東海地方だけでなく、全国的に広い範囲で被害をもたらし、県内で 1 人が死亡、県内外で 30 人以上が怪我をしました。

豊川市内では人的被害こそなかったものの、佐奈川、諏訪川、白川沿いの小田渚、蔵子、桜町地区で越水や内水氾濫により床上・床下浸水や、道路の冠水被害が発生しました。小坂井町、篠東町付近の善光寺川流域でも豊川放水路の水位上昇により内水氾濫が発生。国道 1 号の通行止めを伴う冠水が長時間続き、金沢町などの霞堤地区でも浸水被害が及ぶなど、車両の水没も含めて浸水被害や農業被害が広範囲に及ぶ、甚大な被害をもたらしました。

豊川水系では過去最悪に匹敵する「東三河豪雨」の概要に迫ります。

予測されていた大雨

甚大な自然災害は、前日から予想されていました。6 月 1 日の午前 9 時の時点で、梅雨前線が本州付近に停滞し、台風 2 号が沖縄本島の東の海を北上。台風から湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発になると予想されていました。

名古屋地方気象台は 1 日夕方、翌 2 日は県内で土砂災害や低い土地で浸水被害が発生すると注意を呼び掛け、県東部では多いところで 1 時間に 60 ミリ、午後 6 時までの 24 時間で 2 0 0 ミリ、3 日午後 6 時までの 50 ～ 1 0 0 ミリの雨が降ると予想していました。

J R 東海も、2 日午後は在来線の一部で運転を見合わせる可能性があるとして公式ホームページで発表し、飯田線（新城～辰野）では同日午後 1 時までには運転を見合わせると公表しました。

しかし、実際には予報を上回る大雨が発生することになります。

全人口 18 万人に避難指示

6 月 2 日は金曜日。朝の出勤、登校時間帯から雨が降り出していました。雨脚はどんどん強まり、午前 9 時過ぎ、豊川市は佐奈川と音羽川の水位が水防団待機水位を越えたとして、災害対策本部を設置しました。午後 0 時半過ぎには、一級河川の豊川、音羽川、佐奈川で氾濫の危険性があるとして、豊川市は市内 25 カ所で避難所を開設。各河川の流域では警戒レベル 3（高齢者等避難）、レベル 4（避難指示）と上がっていき、避難指示の対象世帯もどんどん拡大。

ついには午後 10 時過ぎ、豊川市内全域に警戒レベル 5（緊急安全確保）が発令され、全人口にあたる 7 万 9 6 5 1 世帯、18 万 9 0 2 1 人が避難対象となりました。



増水した佐奈川



危険氾濫水位に近づく音羽川

明らかになる被害の全貌

一夜明けて、朝日が昇ると、被害状況が徐々に明らかになりました。

豊川市内では小田渚、蔵子、桜町などの佐奈川、白川付近で浸水被害が発生。豊川でも一部で氾濫が発生し、近くの金沢霞・賀茂霞地区や、国道151号の交差点「宮下」や「城下」付近などで道路が冠水。多くの車が水没し、道路に放置される事態となりました。愛知県は災害対策基本法に基づき、県内では初めて、放置車両を一時的に路肩に移動させる措置を取り、県が管理する国道151号などで対応しました。

総合青山病院や、商業施設クロスモール豊川なども浸水しました。豊川の北側にある当古町や土筒町、院之子町などでも農道やビニールハウスが広く冠水しました。下長山町の住宅街では溢れた水で道路が陥没し、通行止めとなりました。



下長山町では道路が陥没した



水没した小坂井地区



当古町でも車が水没



冠水した国道1号の交差点「宮下」付近

山間部や急斜面では土砂崩れが発生し、御津町では住宅2棟が全壊。御油町や御津町にまたがる県営東三河ふると公園でも崩落や土砂の流入がひどく、閉園に追い込まれました。御津町の金野地区にある座王神社付近でも崩落が発生し、土砂が県道373号・金野豊川線や近くの民家に流れ込みました。



御津町金野地区で土砂崩れが発生



東三河ふると公園でも崩落

豊川市は3日、市文化会館で市制施行80周年記念式典を予定していましたが、大雨の被害状況を考慮して中止しました。「豊川豊」の名で豊川市をPRしている歌手の山川豊さんも来場する予定で、事前に市民600人に入場整理券を配っていたこともあり、苦渋の決断となりました。中止の発表が前日の午後11時過ぎとなったこともあり、中止を知らずに会場を訪れる人の姿もありました。

豊橋では死者、学校対応に遅れ

豊橋市でも大きな被害が出ました。朝早くから雨量が上がり、市は2日午前6時20分に災害対策本部を設置。梅田川と柳生川で越水が発生し、市は午後4時過ぎに警戒レベルを4（避難指示）から5（緊急安全確保）に引き上げ、対象は3万5009世帯7万6696人に上りました。各地の避難所には多くの住民らが身を寄せました。

豊川に近い霞堤地区で、豊橋市下条町の農地では水没した軽ワンボックスカーに取り残された61歳の男性が死亡しました。周辺では、同様に水に浸かって動けなくなった車が数十台取り残されました。下地町では20代の男性が冠水した道路脇に転落して膝を負傷し、札木町では90代の女性が強風にあおられて転倒し、怪我をしました。

豊橋市では朝早くから河川周辺の地域住民に避難指示が出たにもかかわらず、市立の小中学校では臨時休校の措置を取ったのはくすのき特別支援学校の1校だけ。結局、全74校のうち53校が日程を早めに切り上げ、子どもたちを下校させる対応を取りましたが、横殴りの風雨の中で帰路に就く事態となりました。いずれも学校ごとの判断だったことで、保護者からは豊橋市教育委員会の学校任せの姿勢に非難や疑問の声が寄せられました。

市教育委員会によると、暴風・暴風雪警報が出た場合のみ休校・下校の指示を出すことが原則となっていました。教育長が後日、市民に陳謝し、見直す方針を示しました。



式典の中止を知らせる看板

三河全域に広がった被害

三河地方の各市町村に被害が出ました。田原市では市内全域に避難指示が発令され、各地で道路が冠水。国道259号の一部が通行止めとなりました。蒲郡市は市内22カ所に警戒レベル3（高齢者等避難）を発令。大塚町のラグーナ蒲郡近くの海岸沿いでは山肌が崩落し、街灯などをなぎ倒し、国道23号をふさぎました。新城市では土砂災害や河川の氾濫の危険性がある10カ所に避難所を開設し、奥三河地方の設楽町、東栄町、豊根村でも2日の夕方までに避難所が開設されました。

また、岡崎市では美合町周辺の住宅地で浸水被害が発生し、全国で2台しかない全地形対応型車両「レッドサラマンダー」が市内の災害では初めて出動し、7カ所で救助活動を行いました。

県内では最大477カ所の避難所が開設され、約1100人が身を寄せました。

交通網にも多大な影響

鉄道にも大きな影響が出ました。JR東海は2日午後、県内の雨量が規制値に達したとして、東海道新幹線の東京～名古屋の区間で運転を取りやめました。ちょうど東三河の中学校や高校では修学旅行へ出かけていた学校がいくつかあり、新幹線の運休で、現地で足止めを食らうなどの影響も出ました。東海道線などの在来線でも運休や遅れが発生し、翌3日も続きました。

名鉄では名古屋本線の本宿～豊橋の区間で線路が冠水。豊川線でも一部で同様の被害が出ました。蒲郡線でも西尾市内の線路脇で土砂崩れが発生し、蒲郡～吉良吉田の区間で運転を見合わせました。

豊橋鉄道も2日午後4時半ごろから東田本線と、豊橋市から田原市までを結ぶ渥美線を運休しました。

4地点で観測史上最多雨量

今回の大雨では、愛知、三重、静岡にかけて発生した線状降水帯が大きな被害をもたらしました。気象庁によると、2日の午後3時51分と同7時51分の2回、愛知県東部に線状降水帯が発生したとして、顕著な大雨に関する情報を発表しました。

気象庁の降水量観測地点のうち、伊良湖（田原市福江町）で451・5^{ミリ}、豊橋（豊橋市神野新田町）で419^{ミリ}、田原（田原市高松町）で405・5^{ミリ}、蒲郡（蒲郡市神ノ郷町）で343・5^{ミリ}と、いずれも24時間雨量が統計開始以来、史上最多となりました。新城市作手（作手高里）でも史上最多となる66・5^{ミリ}の1時間降水量を観測しました。

豊川水系でも記録的水位

線状降水帯による特有な雨の降り方により、豊川水系流域では、過去の統計と比べても「戦後最悪」に近い大雨だったことが判明しました。

当古観測所（豊川市当古町）と放水路第一観測所（同市柑子町）では、2日午後11時に観測史上最高水位を記録。当古では6・93^{メートル}まで上がり、1974年の観測開始以降、最高だった5・62^{メートル}を更新しました。

放水路第一でも9・74^{メートル}に達し、1975年の観測以降、最高だった9・26^{メートル}を上回りました。放水路第一では2日午前10時に水位が一気に5^{メートル}以上も上昇したため、同11時13分からゲートを開放。午後0時33分には完全に開放されましたが、夜にかけて水位が上がり続けました。

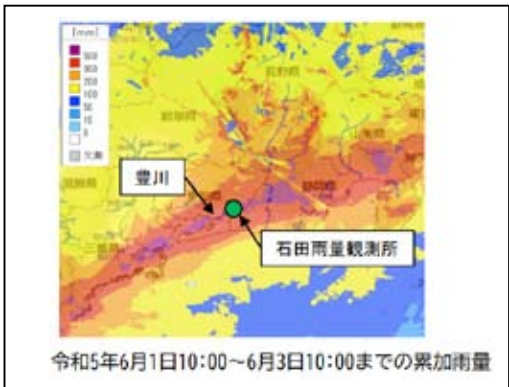
豊川での戦後最大の洪水は、家屋7棟が流失、919棟が半壊・床上浸水した1969年8月の台風7号による大雨でした。まだ記憶に新しい2011年9月の台風15号接近では、石田観測所（新城市庭野）で戦後2番目の水位を記録しています。

今回の大雨では、上流の石田観測所での最高水位は過去最高の8・04^{メートル}に満たない6・97^{メートル}でした。各観測所の水位データを比べると、下流の当古と放水路第一の方が水位の上昇幅が大きく、平野部の上空に発生した線状降水帯によって、下流部に雨が降り続いたことを表しています。

放水路第一近くの正岡町に住む自営業の男性は「最初は避難するつもりはなかったけど、スマホで水位を見ていたらどんどん上がるので怖くなって避難した。部屋はアパートの2階なので大丈夫だったけど、避難していなかったら車は駄目になっていたと思う」と振り返りました。



観測史上最高の6.93^{メートル}に達した頃の当古観測所付近



雨量データからも線状降水帯が東三河平野部にかかっていたことが分かる

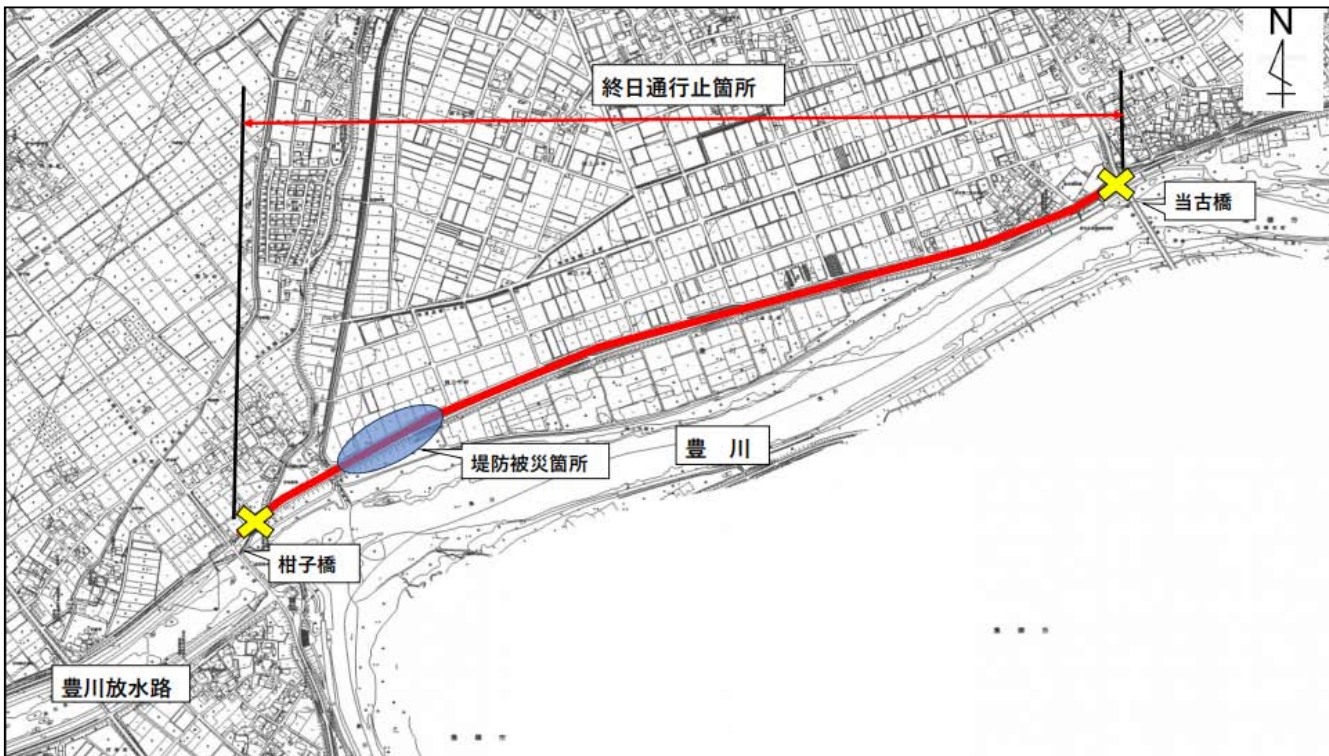
続いた二次災害の不安

記録的な大雨は二次災害の危険性も生みました。発生から4日後の6日午後、この地方で再び雨が強まる予報を受けて、土砂崩れによる家屋の倒壊があった御津町の7世帯18人に警戒レベル4（避難指示）を発令しました。この避難指示は、排水管の設置や、御津山園地から雨水流出を防ぐ措置を実施した後、梅雨明けを迎えた7月24日まで、実に48日間も続きました。

また、豊川市は7月10日、豊川右岸11・8^{メートル}付近（院之子町）の堤防が欠損したのに伴い、市道・行明原月当古清水尻線（柑子橋～当古橋・右岸側堤防道路）を安全確保のため、2024年5月31日まで通行止めにする措置を取りました。市は通行止めの期間中、近隣の国道151号などへの迂回を呼び掛けている。豊川右岸13・8^{メートル}付近でも堤防が欠損しましたが、被災状況が比較的軽いことから通行止めの規制はありません。



土のうで雨水の流出を防ぐ措置が取られた御津山園地



通行止めとなった市道・行明原月当古清水尻線の柑子橋～当古橋

豊川市における被害状況（2023年7月31日時点）

人的被害 なし
住家被害 全壊2棟（土砂災害によるもの）
床上浸水264棟（半壊14、準半壊40、一部損壊210）
床下浸水263棟

非住家被害 91棟

河川の越水 14カ所（音羽川、佐奈川、諏訪川、西古瀬川、御津川 ほか9河川）

道路被害（市道関係分） のり面崩壊62件、道路陥没15件、土砂の流出68件、通行止め33カ所

林道被害 21路線

農業被害 農産被害：13億1105万円
農林水産業施設被害：2億1517万円

学校被害 2カ所（床下浸水、落雷）



豊川市全域の被害マップ

豊川市の町内別被害戸数

	罹災証明書				R5.7月31日時点	
	全壊	半壊	準半壊	一部損壊 床上	一部損壊 床下	一部損壊 浸水なし
市田町					1	
一宮町					2	
伊奈町				13	32	1
大木新町通5丁目					1	
大木町					1	
大崎町					2	
小田渚町2丁目		1	1	27	12	
小田渚町3丁目					5	
小田渚町		4	16	50	46	
金沢町				5	6	
金屋町						1
国府町				1	1	
久保町		1				
小坂井町			2	12	4	
御油町						1
桜町1丁目				4	4	
桜町2丁目				18	11	
桜町3丁目					7	
三蔵子町					3	
篠田町					2	
篠束町					2	
下長山町				1		
宿町				1	2	
白鳥町				3	5	
新青馬町1丁目					2	
新桜町通2丁目						1
瀬木町		2		1		1
蔵子1丁目		2	14	36	41	
蔵子2丁目					8	
蔵子4丁目		4	1	12	23	
蔵子6丁目				3	4	
蔵子7丁目				6	15	
長沢町					1	
当古町				1		
東上町			3	3	2	1
野口町						1
萩町					1	
花井町						1
馬場町					1	
平井町			1	7	4	
平尾町					1	
本野ヶ原5丁目				1		
正岡町					2	
三上町			2			
美園3丁目				1		
御津町	2			3	6	1
谷川町				1		
八幡町					3	1
合計	2	14	40	210	263	10

床上	床下	全壊・浸水なし	合計
264	263	12	539

豊川消防署における災害対応件数（6月2日～6月4日）

- ・災害事案 59 件（救助出動 44 件・その他災害 15 件）
- ・消防署出動延べ人員 322 人
（執務室の災害統括者・記録員等除く）
- ・消防署出動台数 96 台

- ・救助出動
件数 44 件 延べ出動台数 72 台 延べ人員 237 人
救助人員 113 人

- ・その他災害出動
件数 15 件（特別巡視警戒 2 件、風水害等 13 件）
延べ出動台数 24 台 出動延べ人員 85 人

- 【救助件数 44 件の救助方法等の内訳：概算値】
- ・救助要請の理由
道路冠水による車内閉じ込め事故・・・33 件
建物浸水による建物閉じ込め事故・・・11 件

- ・救助隊等による救助方法
ボートを使用した救助・・・・・・・・・・14 件
資機材・介添え・車両移動等による救助・・・19 件
その他（市民協力等・救助不要）・・・・・・11 件（救助なし）

- ・救助活動
あり 33 件
なし 11 件



冠水場所では消防のボートでの救助が相次いだ

大雨災害対応件数内訳

大雨に関する災害（救助） 4 4 件					救助人員	出動延べ人員	
6 月 2 日 9 時 1 0 分～6 月 4 日 9 時 0 0 分（災害対策本部設置期間）					1 1 3 人	2 3 7 名	
番号	日	救助	発生場所住所	覚知	救助人員	台数	計
	6/2	自然災害	豊川市三上町地内	15:57	1	6	18
	6/2	自然災害	豊川市東上町地内	16:51	6	3	11
	6/2	自然災害	豊川市小田渕町 3 丁目地内	18:02	1	1	4
	6/2	自然災害	豊川市長沢町地内	18:24	1	2	5
	6/2	自然災害	豊川市一宮町地内	18:22	0	1	4
	6/2	自然災害	豊川市三上町地内	18:31	5	6	19
	6/2	自然災害	豊川市蔵子 6 丁目地内	18:55	3	1	3
	6/2	自然災害	豊川市篠束町地内	18:54	5	1	4
	6/2	自然災害	豊川市篠田町地内	18:50	2	1	4
	6/2	自然災害	豊川市白鳥町地内	19:03	0	1	3
	6/2	自然災害	豊川市蔵子 1 丁目地内	19:12	0	1	2
	6/2	自然災害	豊川市白鳥町地内	19:20	0	1	3
	6/2	自然災害	豊川市一宮町地内	19:35	0	1	3
	6/2	自然災害	豊川市蔵子 7 丁目地内	19:40	0	1	3
	6/2	自然災害	豊川市蔵子 7 丁目地内	19:54	2	1	2
	6/2	自然災害	豊川市小田渕町地内	20:05	4	2	7
	6/2	自然災害	豊川市小田渕町地内	20:22	2	1	3
	6/2	自然災害	豊川市東上町地内	19:25	0	1	4
	6/2	自然災害	豊川市蔵子 7 丁目地内	20:09	1	1	4
	6/2	自然災害	豊川市蔵子 7 丁目地内	20:36	2	1	4
	6/2	自然災害	豊川市篠田町地内	20:43	3	1	4
	6/2	自然災害	豊川市正岡町地内	20:55	1	1	2

大雨災害対応件数内訳（その他災害）

大雨に関する災害（その他災害） 6月2日9時10分～6月4日9時00分（災害対策本部設置期間）
特別巡視警戒2件 風水害等11件 合計13件 出動延べ人員77人

番号	日	警戒種別名	発生場所住所	覚知	車両 台数	人員
	6/2	風水害等の災害	豊川市豊津町地内	10:08	1	4
	6/2	特別巡視警戒	豊川市諏訪3丁目地内	10:25	5	20
	6/2	風水害等の災害	豊川市御油町地内	10:50	1	4
	6/2	風水害等の災害	豊川市金沢町地内	13:26	1	4
	6/2	特別巡視警戒	豊川市諏訪3丁目地内	14:48	4	16
	6/2	風水害等の災害	豊川市御津町広石地内	15:01	2	4
	6/2	風水害等の災害	豊川市蔵子4丁目地内	18:57	2	5
	6/2	風水害等の災害	豊川市小坂井町地内	20:19	1	3
	6/2	風水害等の災害	豊川市御津町広石地内	20:53	1	3
	6/2	風水害等の災害	豊川市宿町地内	19:54	1	3
	6/2	風水害等の災害	豊川市小田渚町地内	22:09	1	3
	6/2	風水害等の災害	豊川市野口町地内	22:21	1	3
	6/3	風水害等の災害	豊川市御油町地内	7:36	1	5

22台 77人

第二章

桜町連区の対応と復興のあゆみ

桜町連区の対応と復興のあゆみ

市内全域への警戒レベル5（緊急安全確保）の発令で、一時は全人口にあたる 18 万人以上に避難指示が出された豊川市。中でも、佐奈川、白川、諏訪川に囲まれ、低い土地がある桜町連区では、多くの住宅が浸水被害に遭いました。国道 1 号という幹線道路が貫く街の構造から、町外からの避難者も相次いだ桜町連区の災害対応と、復興のあゆみを振り返ります。

独自の判断で学校体育館を開放

2 日の午前 9 時過ぎ、佐奈川の水位が水防団待機水位を越えたため、桜町連区では早い段階から警戒にあたっていました。昼過ぎには桜町地区市民館に避難所が開設され、高齢者を中心に徐々に地域住民らが身を寄せるようになりましたが、状況が一変したのは夕方からでした。午後 7 時、佐奈川の水位がさらに上昇したため、流域に警戒レベル 4（避難指示）が発令されました。この時すでに、桜町地区市民館前を通る県道 21 号線（豊川新城線）や、すぐ西側で国道 1 号線と交わる交差点「桜町」付近で、道路の冠水が相次いで発生。河川の近くに住む地域住民だけでなく、エンジンが水に浸かって動かなくなった車の運転手らも桜町地区市民館に避難してくる事態となりました。

避難所はすぐに人でいっぱいとなり、スペースも物資も不足。消防団からの要望を受けて、鈴木智彦連区長の「市の判断を待っている時間はない。私が責任を取る」という言葉の下、独自の判断で近隣の桜町小学校の体育館を避難所として開放する措置を取りました。地区市民館と小学校体育館には、地元住民らと町外、市外の人らも含めて 1 0 0 人以上が身を寄せて、不安な一夜を過ごしました。

翌 3 日、昼頃になって道路の水はだいぶ引きましたが、市内各地で救助要請が相次いだため、車のレッカー移動には時間がかかりました。そのため、桜町連区の役員や消防団員らが総出となり、立ち往生した車を路肩へ寄せる作業を行いました。

一夜明けて、地域住民らは自宅に帰宅する一方で、車の持ち主らは避難所で待つ状態が続きました。桜町連区としては、地元以外の人が避難所に身を寄せることは想定しておらず、今後の課題にすべき事案ととらえています。



冠水した桜町地区市民館前の県道



桜町連区独自の判断で、避難所として開設された桜町小学校の体育館



動かなくなった車を路肩へ移動する作業に追われた

町民が力を合わせて復興

復興に向けて、まず早急な対応が求められたのが災害ごみでした。豊川市は、災害ごみを千両小学校西側にある三月田最終処分場で臨時に受け入れると発表。持ち込めるごみは今回の大雨で使えなくなった家電、家具、畳などで、期間は 4 日から 9 日までの 6 日間と設定されました。

小田渕在住の市清掃事業課職員の働きかけと市の協力もあり、小田渕では稲荷神社隣の空き地に、蔵子では向山公園近くの空き地に、桜町では寄付公園に、農ヶ上では農ヶ上公園に、計 4 カ所の災害ごみ臨時集積所を設けました。山積みとなった水浸しの畳や家具、家電などが、次々とトラックで三月田最終処分場へと運ばれて行きました。

12 日からは、市は被災した世帯の災害ごみを自宅前まで回収しに行く戸別収集を開始しました。



災害ごみを受け付けた千両町の三月田最終処分場



畳などでいっぱいになった災害ごみ臨時集積所

復興を後押ししたボランティア

被災者の方々の背中を押したのが、地元だけでなく県外からも駆け付けたボランティアの存在でした。桜町連区でもっとも浸水した世帯が多かった小田渕町には、被災直後からたくさんのボランティアたちが駆け付けました。

小牧市のボランティア団体「チームふじさん」は、床上浸水の家屋で床や畳をはがし、床下に乾燥機を置いて水気を消すことに尽力してくれました。水に浸かったエアコンの室外機も修理してくれました。

床上浸水だった家屋でも、床下の断熱材が使えなくなり、N P O 法人かわせみ中部本部のメンバーが床下に潜り込んで断熱材をはがし、ごみ袋に入れる作業に励んでくれました。

県外からは京都や広島、大阪からもボランティアが訪れ、力仕事を中心に尽力。地元からもボランティア参加者が相次ぎ、蔵子や桜町でも活躍してくれました。

小田渕町で 2 階建ての自宅が床上浸水した女性は、8 年前に夫を亡くしてから一人暮らし。「また同じことが起きるかもしれない。少しでも勉強しておかないと」と、ボランティアが床をはがす作業などを目に焼き付けていました。



床上浸水した家屋で床をはがすボランティア



床下に潜って断熱材を撤去



ボランティアが滞在した小田渕集会場



床下から運び出された断熱材

行政による多方面での支援

豊川市による支援も相次ぎました。大雨から３日後、市は被害現場の調査や災害復旧、被災者の支援活動を本格的に開始したのと同時に、資産税課では罹災証明書・罹災届出証明書の申請受付をスタートしました。スムーズな証明書発行のため、被害状況の写真撮影は外観４方向からと、床上浸水の場合は内壁のどの高さまで浸水したかが分かる写真の撮影を呼び掛けました。

浸水被害を受けた住民の希望者に対しては住宅の消毒作業も開始しました。消毒作業は受託業者が行い、同時に一般家屋を対象に消毒液も配布しました。

また、住宅に住めなくなったり、居住に困窮することになった市民に対しては、市営住宅の空き部屋の使用を許可しました。使用期間は原則１カ月以内で、電気・ガス・水道などの光熱費は使用者負担ですが、家賃は免除されました。

６月７日には、被災した世帯の住民に災害見舞金を支給すると発表しました。家屋が全壊・全焼の場合は６万円、半壊・半焼、床上浸水の場合は３万円を支給。床下浸水や車、店舗、カーポートなどは対象外で、申請には罹災証明書が必要となりました。

また、日赤豊川市地区も同様の条件で、全壊・全焼の場合は１万５０００円、半壊・半焼の場合は８０００円、床上浸水の場合は５０００円を支給しました。日赤は合わせて救援物資も提供し、全壊や半壊、床上浸水の被害があった住民には毛布とタオルケットを１人１枚ずつ、日用品を集めた緊急セットを１世帯に１個ずつ配布しました。

床下浸水の世帯にも見舞金

豊川市は７月２１日、新たな支援策として、床下浸水の世帯にも災害見舞金を支給することを発表しました。支給額は１世帯あたり５０００円。これは、桜町連区としての要望が実る形となりました。（５２ページ参照）

また、水道、下水道、農業集落排水施設の利用者のうち、住居が床下浸水以上の被害を受けた場合、各料金の６～１０月分のうち２カ月（１期分）を減免することも発表。減免額は被害内容で異なり、床上浸水の場合、水道料金は従量料金すべて、下水道・農業集落排水施設は使用料すべてが減免されました。

道路の冠水などで被害を受けた自動車の所有者・利用者に対しても水没等自動車災害見舞金として、廃車の場合は１人３万円、修理の場合は同１万円を支給しました。

市はふるさと納税の２つのポータルサイト「さとふる」と「ふるさとチョイス」を活用し、返礼品なしの災害支援寄附金の募集も行いました。７月３１日までに１５３件、７０４万９７０円の寄附申し込みを受け付けました。寄附金は被災者の生活支援のため、水道料金、下水道使用料、農業集落排水施設使用料の減免に活用するほか、今後も災害に対する支援として活用される予定です。

議会では２１年ぶりの緊急質問

豊川市議会は開会中だった６月２０日に「緊急質問」を行い、各会派の代表者が市に対して被害状況や被災者支援、復興の進め方などに関する質問を行い、対策を求めました。緊急質問は災害発生など緊急を要する場合などに議会の同意を得た上で行われ、豊川市では２００２年に当時の現職市議が逮捕されたことに伴い行われて以来、史上６回目のこととなりました。

７月２１日の臨時市議会では、災害救助費や応急復旧費を盛り込んだ一般会計補正予算案を可決。４億９５８万４０００円を追加し、一般会計の総額は７１９億５９８４万２０００円となりました。追加予算の主な内訳は、災害復旧費（３億７１７２万円）として農業・林業関連に２億１２８４万円、道路橋梁や河川などに１億４３７５万円、小学校施設に１５１２万円。この中には水没等自動車災害見舞金として１２００万円なども盛り込まれました。

桜町小学校の被害

豊川市内にある小学校では唯一、市立桜町小学校が浸水被害を受けました。

もっとも被害が大きかったのは南校舎でした。支援学級教室、多目的ホール、２カ所の倉庫、トイレなどが床上２０センチほどまで水に浸かり、畳や床に置かれていた扇風機、ストーブなどは処分することになりました。児童のロッカーの下段に置かれていた教科書なども同様に水浸しとなりました。

他の施設でも床下浸水があり、北校舎では昇降口あたりまで水が入ってきて、玄関にあった倉庫が浸水。体育館やプール、防災倉庫などでも水に浸かった部分がありました。飼育小屋では敷いてあった土が水に浸かったため、すべてを取り換えることになりました。

その他、運動場では直径１センチほどの大きさで、深さ１センチ以上の陥没の発生が確認されました。普通教室のエアコンの室外機は故障し、夏に向けて１、２年生の子どもたちが育てていた鉢植えは全滅してしまいました。



南校舎の教室では床が浸水



廊下も水浸しに



運動場では陥没が発生した

体験手記

あの日、被害が大きかった桜町連区では何が起こっていたのか。各地区の町内会役員や被災者の方々に恐怖の一夜を振り返ってもらい、感じたことや思ったこと、今後の災害に備えて改善すべき課題を挙げてもらいました。

<小田渕>

家のあちこちから泡の音

星川 和雄（小田渕区長）

私は私用で6月1日の夜、浜名湖で一泊して朝帰りでした。2日は帰路の途中、浜名バイパスは大雨で前が見づらいほどです。線状降水帯が渥美半島上空に居座って一日中の大雨だったかと思います。夕方には水位がどんどん上がって、これは危険な状態だと感じ右往左往しているうちに夜10時ごろまさかの事が起きました。家は停電になり、ろうそくで明かりを灯し路頭に迷っていたら、あちこちからブクブクと泡の音が聞こえてくるではありませんか。みるみるうちに水が床上に上がって畳がプカプカと浮いてきました。高さ15センチくらいまで上がるのを見て、あきらめて寝てしまいました。

翌3日朝4時ごろに起きて外を見まわしたとき、水が一切ないではありませんか。これには大変驚きました。早々に店に入るや1分まで水に浸かった跡があり被害は大変甚大でした。早々、後片付けのことを思いました。不用品の持ち出し場所等を考えていたら、小田渕神社横の空き地が仮置き場となりました。次々と運ばれてくる廃材、不用品がみるみるうちに山になり、清掃課の職員が車で焼却場にピストン輸送していただき大変助かりました。私たちは交代でその場を管理していたため、家の片付けは人任せになり大変申し訳なく思いました。

私も初めての経験で100年に一度と言われておりますが、それにしても高い代償になりました。将来このような大惨事が二度と起きないことを祈るばかりです。最後に、被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

<小田渕>

防災訓練への参加が備えに

古市 修康（元小田渕区長・桜町連区防災スタッフ長）

このたび台風2号から伸びる線状降水帯による降雨水害は、桜町校区有史以来初の災害となりました。（桜町校区の今昔昭和28年編集参考）地球環境が、温暖化から沸騰化の時代へ移行したとの変化を体感したと感じます。

災害発生時には、地元消防団員が国道1号線で水没し、行き場を失った他府県の運転手さんを救護のうえ、避難所として桜町地区市民館、桜町小学校体育館へ誘導したり、連区長をはじめ各区長役員関係者と連携を図り救援物資をずぶ濡れの被災者へ提供する活動を翌日未明まで継続しました。翌朝には、全国から災害支援ボランティアの方々が駆け付け、被災家庭を回りゴミの撤去などの支援を頂きました。支援活動に来てくれたボランティアの皆さん、国、県など行政からの支援に奔走して下さった市長はじめ、国県市議会議員、役員の皆様にお礼を申し上げます。

また、被災者の一人として「地域で実施する防災訓練は、本当に大切です」との思いで参加していたことが災害の備えになっていたことをお伝えします。防災に万全はありませんが、今一度、地元の「防災訓練」に参加してそれぞれの立場で、災害への備えの向上を図って下さい。

最後に、水害の発生に際してご支援を頂いた皆様に、被災記録に残すことをもって御礼とさせていただきます。



＜小田渕＞

友人や地域の支えが力に

川口 禎一

6月2日の豪雨で、我が家は床上浸水に遭いました。被災当初は何をどうして良いのかもわからず、それでも目の前にある課題を一つずつこなしてきましたが、5カ月経った今でもまだ補修工事は終わらず、元の生活には戻れていません。あの豪雨の規模でここまで生活に支障が出るのなら、もっと大きな災害を受けた被災地の方々は計り知れない苦労をされているんだと感じています。

今回の豪雨では、被災翌日にSNSを見た友人等が片付けの手伝いをしてくれたり、ボランティアの方々や地域の人達やネットワークにも助けられ、最低限の生活が出来るようになるまでにはそこまで時間はかかりませんでした。それから問題は山積みでしたが、そのたびにたくさんの方々に助けられて、今でも頑張ることが出来ています。

この経験が無駄にしないように、災害への対策はもちろんですが、災害時に同じ苦労をする人が1人でも減るように、周りに伝えていくことが出来ればと思っています。



＜蔵子＞

車の誘導中に感じた命の危険

佐野 裕昭（蔵子一区区長）

6月2日は午後6時45分ごろ、連区役員から蔵子の墓地付近が増水のため応援出動の要請がありました。黄色の交通安全帽子の上にヘルメット、カッパ、長靴、蔵子区長安全ベストを着用し、右手に懐中電灯、左手に誘導灯、携帯電話をウエストポーチに入れ出かけました。雨脚が強く、蔵子2丁目交差点付近は道路が水に浸かり川の流れのようでした。一刻も早く現地を目指しましたが、足首あたりまで深さがあり、流れに逆らいながら歩きました。

途中のJ Aひまわり蔵子支店まで行くと、水深は膝近くまで来て身の危険を感じました。車が近くを通るたびに波が発生し、身体に衝撃が来ました。さらに深さのある墓地方面に向かう車があり、それを阻止するために4役で仕事分担をしました。東から来る車、西から来る車の誘導を同僚に任せ、私は手前の2丁目信号付近の交通整理にあたり、車が侵入して来ないように誘導しました。次から次へと車が進入し、誘導灯での指示と運転手への説明、流れてくるプラスチックの段差補助材・ゴミ箱の片付けなど、1人でこなせる仕事ではないと感じました。電話をしようと試みますが周りは暗く、雨は線状降水帯の真ただ中、遠慮なく侵入して来る車に引かれるのではないかと恐怖さえ感じました。電話をするために外した片方の手袋を落とし、拾おうにも拾えず、流されてしまいました。

何とか連絡が取れ、1人応援に来てもらえて安堵しました。周りの状況を確認したいが、警察官や市職員の方たちも緊急動員のため状況がつかめない状態でした。午後9時前によく市職員の方と交代してもらい、任務を終えましたが、ファミリーマートの駐車場や歩道は避難する車で溢れていました。次の日に分かったことですが、諏訪川の大竹医院付近と佐奈川本流合流地点手前で越水が起ったため、あれだけの洪水になったことを知りました。状況が分からず任務に就くことの怖さ、必ずペアで活動する必要性、危険を感じたらすぐに避難し、安全な場所に移動することなど、今後の水害対策に生かしていきたいです。

翌日、校区の運動会の中止連絡がありました。農協倉庫に備え付けてあった消火栓ホースが入った赤いケースが流され、小学校プール南道路の隅、伊藤電気屋付近まで120㍍ほど流されていました。2丁目交差点付近では20台近くの車が水没で立往生していました。蔵子の墓地横の1丁目交差点付近では3台の車が立往生し、道路をふさいでいました。警察に電話して普通車は早々に撤去していただけたますが、大型乗用車は撤去まで5日ほどかかりました。蔵子区民館のトイレは地下半階にあり、泥水が溜まり、バケツでくみ出しました。町内を回ると、水害に遭われた方々が所々で集まり、今後、床下浸水にならないためにはどうしたら良いか相談していました。床下・床上など浸水する場所が地域によって固まっていますが、近所で助け合いがあり、中にはボランティアや親戚の方々が集まって協力し合う姿も見られました。可燃ゴミの受け入れはありがたく、被災粗大ゴミの集積所が町内所有の梅畑に設置されたことは助かりました。

また、床上浸水のご家庭をボランティア、区長・副区長の付き添いで回り、汚水の処理、浸水した断熱材の取り除き、カビの発生を防ぐ等、送風機による乾燥対策を話し合いました。ボランティアの「かわせみ」、「チームふじさん」の方々には3カ月以上お世話になりました。金、土、日曜と手弁当で働いていただき、金・土曜と区民館を宿として提供しました。送風機等の機材（電動工具・掃除道具一式・消毒用機材・充電器）の置き場として蔵子館に2畳ほどスペースを提供しました。町内会住民に被害調査もしていただき、お世話になった方からは「あんなにしっかりやってくださったのだから、お金を払わずに申し訳ない」という声がありました。

町民の命を守るための今後の対策として、大雨や台風時、必要な情報を住民の方に早く知らせることが重要です。特に、高齢者家族や一人住まいの方には迅速に伝えたいです。区長→四役→区議員→組長→小グループ（回覧板順に連絡・隣同士など）の順番で知らせ、スマートフォンの結ネットや紙媒体の活用も重要です。墓地周辺の排水機能アップを市の土木課へ要望することも必要です。

＜蔵子＞

駐車場を無料開放した店舗に感謝

佐野 秀男（桜町連区副連区長・元蔵子区長）

私たち桜町校区は、今までにない豪雨に見舞われました。水害に被災された方、経験のない豪雨に避難等を心配された方に改めてお見舞い申し上げます。

6月2日、私は帰宅途中に通勤経路の伊奈鳥川線の冠水を気にしながら午後6時ごろ、ＪＡひまわり蔵子支店付近に差し掛かったところ、南進が通行止めとなっており市職員から迂回するよう誘導されました。その場でかつての冠水に比べて水嵩が多いことに驚き、帰宅後、テレビ放送、市の情報、佐奈川、西古瀬川等の水位監視カメラをスマートフォンで確認しながら西方向からの浸水を想定し、農機具等を安全な場所へ移動させました。避難所が開設された桜町地区市民館へ向かう準備をしていた夜8時ごろ、物が接触するような音がするため屋外に出ると、先ほど移動させた農機具が敷地内を西からでなく東から水位約30㍍の水で流れていることに驚き、隣家まで流れた300㍍の空きポリタンクを戻すことに改めて水の強さを痛感しました。再度、農機具の養生に時間を費やしました。

水位上昇は午前0時ごろには収まり、しばらくして水位低下が見受けられ一安心しました。しかし、眠れぬ夜を過ごし、夜明けには水がはけており東方向の諏訪川の状況を確認しました。水位は普段より多いものの低下しており、堤防の天端の数カ所で越水により草が横倒しになっていることが確認できました。途中、篠東野口線をはじめ、ほとんどの道路には泥土が残っており、浸水で故障した30台以上の車が道路中央で放置された状況で、以後数日間、通行車両に支障を来すことになりました。

今回の災害を受けて、小生自身が想定していなかったこととして、①郷中（町内）の道路を流れた水が三叉路突き当りの建物シャッターを水勢で破損、②伊奈鳥川線が水位上昇により通行止めにもかかわらず大型トラックが通行するため、その余波で道路沿いの駐車場の乗用車が浮いて車同士が接触する被害が発生。道路沿いのアパートの集中ガスボンベが同様に転倒したり、道路沿いの車庫シャッターが破損。③避難所の桜町地区市民館へ向かう他地域からの車が道に迷い路地に入り故障し、その車が水流の方向を変えたため被災した家屋もありました。そんな中で、車の避難所として駐車場を無料開放してくれた店舗・事業者による対応には感謝申し上げます。

また、水害対策として市へ要望することとして、毎年のように冠水する地域に調整池等も必要と思われますが、諏訪川へ流入する水を遅らせる調整池を上流に複数設置をお願いしたいと同時に、警戒レベルを普段から認識する意味で回覧板に明示することが必要と思います。課題として、水害時の一般車両の交通規制と、日ごろの情報理解や災害時に対応しやすくなるため町内会への加入勧誘が浮き彫りとなりました。

最後になりましたが、今回のような水位上昇にもかかわらず、水はけの良いことは市の担当部署による設備等日常管理を含め、市関係者には迅速な復旧対応に感謝申し上げます。

＜蔵子＞

妻がたらい船のように浮いた畳にめまい

近藤 保治（元蔵子区長）

6月2日午後2時半ごろ、日ごろから家族ぐるみで付き合いのある隣の奥さんに、豊田の大学に通っている孫から「名鉄、ＪＲが岡崎でストップしているため、迎えに来てほしい」と連絡がありました。奥さんは行ったことないため、私に応援依頼があり、自分が運転して2人で国道23号を走ってＪＲ岡崎駅に向かいました。途中の大塚付近から左片側タイヤ半分ほどの高さまで水位があり、慎重に運転しました。この時、3回ほど計器に異常ランプが点灯しました。

帰りは国道1号を走りましたが、本宿付近の名鉄線路の土砂崩れにより、美合から渋滞していました。豊川市では京次の交差点から浸水して通行止めのため、イオンモール西側から回しましたが、蔵子6丁目交差点付近から水位があり、ＪＡひまわり蔵子支店から先は行けず、佐奈川堤防に出てようやく午後6時ごろに到着しました。過去に何度もあるように、自宅前の道路は膝下まで水位が来ていました。

夕食を取っていた午後6時半ごろ、別の部屋にいた妻が、水で浮いた畳がたらい船のようになったため「眩暈がする」と言いました。水位は床上20～30㍍ほどまで一気に上がり、一部の電気製品を高い所に移動しましたが浸水が早く、かなりの物を濡らしながら徹夜で片付けに追われました。停電もあり、混乱しました。外は深い所で腰くらいまで水位があり、佐奈川、諏訪川の越水で一面海のような状態でした。

6月3日から5日まで娘夫婦が応援に来てくれて、室内からは畳や家財、衣類、電気製品等を、物置からは書類4000～5000冊を、車庫からは学校用廃品類等を家庭ごみ、資源ごみ、粗大ごみに分類し、ごみステーションと連区計らいの町内の梅畑に軽トラックで30回ほど運搬しました。

以下、その後の記録です。

- ・6月3日(土)～6月5日(月) ゴミ出し(本、多く時間かかる)
- ・6月3日(土)～6月19日(月) 毎日、片付け整理
- ・6月3日(土) 星川市議見舞い来宅
- ・6月5日(月)～9月30日(土) 扇風機7台で24時間床下乾燥をかける
- ・6月5日(月) 市役所へ罹災証明手続き
- ・6月5日(月)～7日(水) 温水室外機浸水故障のため入浴できず実家入浴
- ・6月5日(月) 豊橋技術科学大学の豊田将也らが聞き取り調査で来宅
- ・6月6日(火) 市役所から2名が罹災証明のため来宅
- ・6月6日(火) 保険屋、浸水連絡
- ・6月7日(水) 温水機、部品交換修理
- ・6月7日(水) 鈴川連区長、佐野副連区長、鈴木利明氏、見舞いで来宅
- ・6月8日(木) 衣類、寝具、浸水処分のため至急品購入
- ・6月9日(金) 市役所環境課に消毒依頼連絡
- ・6月9日(金) 保険屋、愛知災害対策室担当者家屋調査で来宅
- ・6月11日(日) 藤原県議、鈴川連区長、佐野副連区長、門谷事務局長、来宅
- ・6月12日(月) 池田畳店、来宅確認、新調依頼
- ・6月12日(月) 一幸建設(豊川地区担当) 来宅、被害状況調査、後日修理見積書持参
- ・6月13日(火) 佐野モータース、マイカー座席まで浸水のため保険屋調査、廃車
- ・6月21日(水) 市役所の環境課2名が床下、外部土壤消毒
- ・6月21日(水) 市役所から2名が罹災調査で2回目の来宅
- ・6月26日(月) 各修理関係、見積書保険屋郵送
- ・6月26日(月) 市役所、罹災証明書提出(見舞金、税関係減免のため使用)
- ・7月8日(土) 大嶽県議、佐野区長、杉岡副区長、ボランティア代表来宅調査
- ・7月9日(日) 大嶽県議、ボランティア6名来宅、白アリ用床下竹炭排出応援



- ・ 7 月 13 日 (木) 今枝衆院議員秘書、田淵氏来宅
- ・ 7 月 16 日 (日) ボランティア代表来宅、床下、カビ湿度調査
- ・ 7 月 17 日 (月) ボランティア 2 名来宅、8 ミリフィルム浸水被害確認分持参
- ・ 10 月 6 日 (金) 宗心寺住職にて仏壇祥拔
- ・ 10 月 7 日 (土) 田中仏具店、仏壇仮移動
- ・ 10 月 10 日 (火) ～ 11 月 20 日 (月) 浸水被害 (部分解体、新設) 修繕工事



＜桜町＞

身に染みた防災意識の低さ

大場 保雄（桜町区長）

6 月 2 日午後 2 時、翌日の桜町小学校・桜町連区合同運動会の準備のため、白鳥神社社務所へ体育委員との待ち合わせへ出向きました。同刻より雨がかなり強くなってきて、この時点で豊川市に大雨洪水警報が出されていました。翌日の運動会は日曜日に延期とのことで、当日の早朝 7 時から準備をする形となりました。午後 2 時半、桜町小学校では職員が慌ただしくしていたので、運動会の予定などを聞いたところ「おそらく日曜日でも中止になる」という情報がありました。

午後 7 時ごろから線状降水帯特有の降り方を感じました。実は、私は平成 12 年の東海豪雨の際に名古屋市内で帰宅困難者となり、片側 4 車線の桜通線で路面の水高がみるみるうちに上がるのを見ながら一夜を明かす体験をしました。その時と降り方がまったく同じに感じました。この時、自宅前(桜町 3 丁目付近)は水深 10 センチ程度でしたが、その後も降り続き、テレビ報道では避難指示が出されていました。

午後 9 時ごろになると膝上程度の水高になり、近隣の住民が自家用車の移動を始めました。幸いにも自宅車庫は少しだけ高くなっていたので、タイヤ半分程度の浸水で収まりましたが、すでに自宅から出るのは危険と判断しました。

一夜明けて翌 3 日、午前 8 時ごろに桜町地区市民館へ出かけると警察官や連区役員が水没車両の移動を行っていたので、手伝いました。まるでどこからか流されてきたように無秩序に放置された車が 10 台以上ありました。特に通行車両の邪魔になる車両から優先的に、タイヤをつかんで持ち上げる警察の特殊器具で移動させました。地元ではない見慣れないナンバープレートばかりでした。

渋滞緩和が見られたのを確認して、臨時区長会が始まりました。会議では災害発生ごみ、家具、畳等の臨時仮置き場の設置が検討され、寄付公園トイレ横の一角など数カ所が指定されました。町内会への情報発信として、仮置き場の設置情報などを記したチラシ 1 6 0 部を印刷し、各家庭に配布しました。

翌 4 日、午前 8 時ごろに白鳥神社社務所に被害確認に出向きましたが、想像以上の被害に愕然としました。床上 20 センチ程度の浸水で一面泥の薄い層がこびり付いており、足元を取られる状況でした。宮係・区議員と共に畳の撤去と高圧洗浄機による泥の洗い流し作業を開始。畳は臨時ごみ集積所（寄付公園）へ搬入するも、公園入口に来ていた市清掃事業課職員からの依頼で、直接三月田臨時仮置き場へ持ってきました。白鳥神社社務所と三月田仮置き場を 4 往復（畳 32 枚、水没家具等）することになり、三月田では N H K 豊橋局が取材中で急遽インタビューを受けました。桜町町内会全戸のアンケートによると、被害車両は 2 0 0 台以上、床上浸水は 24 棟と、被害は甚大でした。

今回の災害では多くのことを学び、防災意識の低さが身に染みて分かりました。地球が過去最も暑い月となった 2 0 2 3 年 7 月。8 月に入ると台風の襲来が重なり、日本列島が翻弄されました。「地球沸騰化」と形容される、これまでにない酷い暑さと予測しづらい動きをする勢力の強い台風には相関関係があります。温暖化によって、移動速度の遅い危険な台風や線状降水帯が増えています。

今回の被害状況をまとめた情報によると、愛知県内では全壊 3 棟（豊川市 2 棟、岡崎市 1 棟）、半壊 1 2 8 棟（岡崎市 1 2 6 棟、豊川市 2 棟）、一部損壊 7 棟（岡崎市 4 棟、新城市 2 棟、設楽町 1 棟）、床上浸水 3 3 1 棟（豊橋市 8 棟、豊川市 2 2 4 棟＝ 67.7%、田原市 12 棟、新城市 4 棟、安城市 1 棟、幸田町 4 棟）、床下浸水 7 1 1 棟（豊橋市 1 7 6 棟、豊川市 2 0 5 棟＝ 28.8%、田原市 41 棟、新城市 13 棟、岡崎市 2 6 1 棟、西尾市 4 棟、知立市 2 棟、安城市 1 棟、南知多町 1 棟、幸田町 7 棟）でした。

以上の被害概要で特に思うのは、床上浸水の実に 68% が豊川市であり、その大半が桜町連区内で発生したということです。これは最悪の内水氾濫であり、早急な対策が望まれます。

＜蔵子＞

いち早く正確な情報の共有を

林 洋司（桜町連区副連区長）

今回の水害で感じたことを述べます。

- ・災害に対して、まず自分の身の安全を考えて動きやすく、災害に合った服装や装備で対応する。
- ・災害で一番重要なのは情報であり、正確な情報を得てより多くの人々と情報を共有し、自分たちでできる行動をとる。外部から来たドライバーの人々には親切でより正確な情報で対応する。
- ・今回の大雨に対して、身近な避難所や交通規制、特に大型車両、車の避難場所の確保の必要性を強く感じた。また、流れてくる流木、ごみ箱、ごみ袋などに対する対策も必要。日常生活の中でも常に有効な場所を心にとめて行動を取ることが求められる。
- ・本部としては結集の基準を共有する。可能な人はいち早く結集し、市役所など幅広い情報を得て、地域の人々とともに、特に若い人を中心にして地域を守る活動をする。
- ・復旧には地域行政の力を結集して、地元の若い力や、ボランティアなど外部の協力をお願いし、住民の皆さんの不安や心配にいち早く対応する。ボランティアへの協力体制も必要。



＜農ヶ上＞

次々と水没する車になす術なく

門谷 知卓（桜町連区事務局長）

6月2日は、近年にない雨降りの状況が続き、自宅前の白川の水位が上がっていくのがとても不安でした。私はこの日は勤務が休みだったのですが、午前10時43分に大雨洪水警報が発令され、桜町地区市民館に避難所対策員の配備がされました。急遽夜に予定されていた会合の中止を各区長へ連絡しました。午後7時ごろの白川の水位は堤防までギリギリのところまで来ており、不安でした。午後10時ごろには、イオンモールに隣接するスズキアリーナの店舗前道路が冠水しており、気が付かないまま進入してしまう車が多く、中には立ち往生してしまう車もありましたが、なす術もありませんでした。

翌3日午前4時ごろには白川の水位も下がり、道路の冠水も改善していましたが、数台の車が放置されていました。その後、情報収集のため各町内を回りましたが、多くの車が道路に放置されているのが散見され、状況が分からないままでした。その後、蔵子2丁目交差点付近から国道1号線までの広い範囲で冠水による水害の実態が判明しました。

毎年、蔵子1丁目交差点付近は雨が降ると小規模の冠水があり、付近の方は対応に苦慮しておられましたが、今回の場合は経験したことがない床上浸水の被害となりました。また、桜町区内、小田渕区内と被害の状況が分かってくるほど水害の怖さを実感しました。

おそらく、桜町連区内の方でこのような水害を経験した方はいなかったと思います。また、市内の学校で水害のあったのは桜町小学校だけだったのも慙愧に堪えません。私たち連区役員はこの状況を後世に伝えていくことを使命ととらえ、今後の防災対策に役立てていきたいと思っています。

＜蔵子＞

腰まで浸水した中での8時間

林 久仁（桜町小学校施設管理指導員）

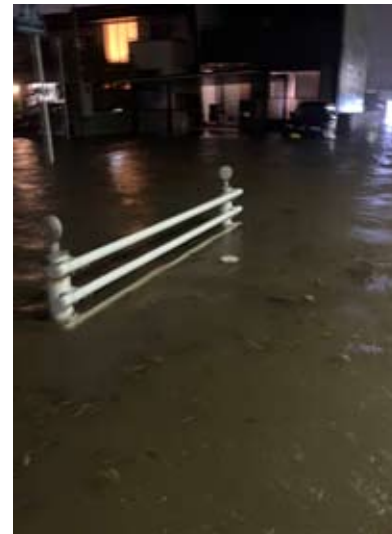
6月2日午後7時ごろ、消防団員の息子より「親父、体育館を開けてくれ」と電話がありました。「水害の場合は地区市民館に避難となっているので、市民館が開放している、体育館は地震での避難所だよ」と伝え、息子から「冠水した道路で止まってしまった車から避難させるのに、水の勢いが激しくて市民館に行けない」と返答があり、まさかと思って外に出たら恐ろしいほどの水位でびっくりしました。市民館前は腰あたりの高さまで水位があり、20数台の車が立ち往生していました。消防団員とともに車を道路の隅に動かして、乗っていた方を1人ずつ抱きかかえるように車から連れ出し、お年寄りから子供まで20数名ほどを救出しました。また、国道へ出ようとする車を止めたりして、交通整理では四苦八苦しました。ドライバーの皆さんもパニック状態で一触即発の状態でしたが、消防団員やそのOBらの冷静な対応で事なき終えました。

午後9時には体育館の中に60名ほどの避難者がいました。ほとんどの方は車が動かなくなり避難してきた方々で、中には三重県や群馬県の方もいました。防災倉庫から毛布を必要な方に配布し、消防団員がお茶などの水分を提供し、炊き出しでインスタントラーメンなどをお腹がすいた方々に提供しました。また避難者から要望が多かったのはスマートフォン、携帯電話の充電でした。素早く対応し、憔悴しきった方々には大変感謝されました。

午後11時ごろに水位が下がってきて動く車が出始めたため、市民館前の動かない車を数人で動かしてスムーズに通行できるように深夜2時ごろまで頑張りました。3時ごろには市役所の避難所対策員が見えたので、交代して自宅に帰りました。自宅は床下、お店は床上まで浸水していました。

ここ2年前から桜町連区では防災訓練を充実した形で実施してきました。このおかげで状況の伝達（防災会のグループライン）ができ、連区役員の指示を仰ぎながら、消防団員との連携でスムーズな行動につながりました。また、防災倉庫内の中身も防災訓練で把握できていたため、緊急時に慌てず活用できました。連区役員の方々がここ数年、防災に非常に前向きに取り組んでくれたおかげで、市民館への避難者50名ほど、体育館への避難者60名ほどの方々が車等の物損こそありましたが、怪我もなく無事に命を守れたと思います。特に、桜町消防団員の皆さんの行動は素晴らしかったです。

想定外の浸水で、市民館前での夜中の8時間の戦いが今でも頭から離れません。



＜桜町＞

孤独の中で救いになったＳＮＳ情報

山本 泰史

―当日の朝

その日は、月に一度の名古屋への出張の日でした。前日のニュースで、東三河にまとまった雨が降ると予報されていたので、雨量が気になっていました。朝 7 時 50 分に小田渕駅に向かう途中、国道 1 号線を渡る手前にある、アパートと畑の境目にある水路の水位がいっぱいでした。ここは、大雨が降るとまず先に水位が上がり、その後、畑に水がつき、雨が長引くと家の前の道路の冠水が始まるという、一種のバロメーターになっています。「夜に山の方で振ったのかな？」と心配しながら傘をさして、スーツに長靴姿で駅に向かい電車に乗り込みました。

職務の合間にスマートフォンで雨雲レーダーを確認すると、豊川市周辺が線状降水帯を示す赤色になっていたので心配でしたが、名古屋市内の雨はそれほどでもなく、早退することはしませんでした。ただ午後 3 時には事務局から豊川市で雨が激しいので早めの帰宅を促されました。電車で帰宅途中、午後 4 時には電光掲示板とダイヤが合っておらず、途中下車しながら東岡崎駅までたどり着きました。本宿駅までは運行していましたが、その日は帰宅困難者となりました。

―翌日の状況

翌日、朝 7 時過ぎに小田渕駅に降り立つと、どこかいつもより静かで、民家が冠水した形跡や畑にはまっている車など、非日常の光景が目に見え込んできました。そんな中、早いお宅ではすでに片付けが始まっており、濡れた畳を出している家が何軒もありました。焦る気持ちを抑えながら家路に就きました。途中、仕事の電話が鳴りましたが「うちも被害に遭いまして…」と声を絞り出すのがやっとでした。

―被害状況

我が家の被害状況ですが、居宅が床上浸水 15 ㍓、事務所が 25 ㍓ほどでした。そのため、コンセメントの高さまで水に浸かった時には火花が散ってブレーカーが落ちたそうです。当然帰宅した時には床は雨水で濡れたままで荷物が散乱。ためらいもせず、そのまま土足で家に上がりました。和室の畳は持ち上がっており、建具のガラスは割れた個所もありました。家族が 2 階に物を上げてくれましたが、事務所の備品などは水に浸かり使えなくなってしまったものも多くありました。

乗用車は仕事用を含めて 3 台が座席の下まで浸水、そのうち 2 台は廃車を促されましたが、2 カ月ほど乾燥させていたらエンジンがかかるようになりました。畳は全部で 20 枚を廃棄し、水に濡れた畳は重たく運び出すのも大変で、処分場まで運搬するにもトラックが必要です。低い位置で置いていたものはほぼ水浸し、想像以上のありさまでした。

家族構成は父と私、家内と小学生が 2 人。特に子供たちは前の道の水位が徐々に上がり、雨水が押し迫って来て、ついには家の中に侵入して水に浸かっていた時間は怖かったと思います。

―週末の状況

その日からごみとなってしまった物をひたすら片付ける日々。とりあえず玄関、家の前に出したごみを片付けたい。処分したい。家中を水洗いしたい。床下を乾かしたい。家族が落ち着いて寝られる場所を作りたい。いろいろと考えることばかりで、まったく心と生活に余裕がありませんでした。家の前の道は翌日が土曜日ということもあり、たくさんの見物人が来ました。ただでさえ狭い道に動かなくなった車が放置され渋滞していたのに、「このあたりはひどかったね」と話し、散歩する普段見かけない呑気な老夫婦、無断駐車 of 背広男性、ずっとスマートフォンを片手に撮影し、バイクで走り去っていく輩もいたりして、片付け作業もままならない週末でもありました。

―片付け復旧

1 週間もすると、床下壁の下端にカビが発生するので、臭い対策と換気のため窓は就寝時も開ければなしでした。そもそも夜中に目が覚める毎日で、テレビも新聞も見られる心境ではなく、ラジオすら耳に入っていない心理状態でした。そんな中、たくさんの方がお見舞いに来ていただいたり、片付け作業を手伝ってくれたりしました。自発的に名古屋から自転車でお越しのボランティアの方にもお会いしました。次は自分もそちら側の人間になりたいと思い、感謝しました。

桜町連区のご英断で、各町内に水害ごみの集積所ができたのは大変ありがたかったです。とても市の処分場まで運び出す量でも心境でもありませんでした。

9 月まではお盆も休むことなくひたすら片付け、水洗い清掃もして自宅事務所の復旧作業に明け暮れました。まだ、段ボールに入れ込んだままで手つかずの荷物がありますが、おかげさまで元の生活にまで近付いてきました。その後、大きな台風もなく 11 月になり、今年はまだ半分しか過ごしていない気持ちもありますが、6 月の水害被害を家族で乗り越えられたおかげで、逆に前向きな毎日を過ごせている。そんな気がしております。

―情報の大切さ

被災時には、とにかく迅速に行政の情報、対応、有益で確実な情報を欲しました。当日の状況、避難、対応などをリアルタイムに発信してくれていた、他地区の市議員さんの SNS には助かりました。現場に戻れなかった者に状況が伝わり、ホテルの一室で孤独の中、家内との電話と同様に貴重で推察できる情報源でした。また翌日にはお忙しい中、現場周辺と我が家の被害状況を確認しに寄ってくれた他校区の市議員さんもおられました。家のパソコンはまだ水浸しの部屋にある状態で、スマートフォンで市のホームページを確認する程度。罹災証明書を申請したいけど、ファイルをダウンロードする余裕もないことを告げると、後日用紙をわざわざ持って届けに来てくれました。ご厚意に甘えて申請書類に添付する写真データも整理していただきました。

落ち着きようのない数日間、未確定な情報も飛び交っていましたので、確実な情報は大切だと感じました。大雨当日に車を避難できる施設があったことは知りませんでした。近隣の方々からも知らなかった情報を教えていただき本当に助けられました。

―おわりに

今年は日本各地で線状降水帯による大雨被害がありました。地球規模の気象変動の影響なのか、今後このような被害を受ける可能性はこの地域でも起こり得ると考えます。河川の氾濫、道路の高低差、排水設備など地理的な要因も多々あるかと思います。特に車両の被害も多かったですが、すぐに廃車と割り切れるわけではありません。また家の復旧作業中は工事車両でいっぱいになる時もあるので、材料の搬入時など一時的に駐車できる場所があると助かります。

今回この地域で発生した水害被害を教訓に、まんがいちの時に町民へ速やかな対応ができ、被害を受けた人を助け動ける組織づくりとともに、確実な情報を平等に伝達できる方法の検討は不可欠だと感じました。弱者は、受けた恩恵、されたこと、言われたことは忘れることができません。

今後の課題と対策、見直すべき点は総合的に検証していただき、次世代に引き継いでほしいと思い、手記をしたためさせていただきました。このたびはご支援いただき、ありがとうございました。



＜農ヶ上＞

被災３カ月後に判明した避難者

安藤 裕之（農ヶ上区長）

６月２日は朝から続く雨の日、自宅で豊川市のホームページから白川と佐奈川の水位を見ていました。市民館避難所対策員の佐野さんからの電話で「桜町地区市民館が避難所として開設しました」との連絡がありましたが、具体的な指示もなく自宅待機していました。午後９時ごろにツイッター（現X）動画において、豊川信用金庫蔵子支店付近の道路が冠水しているとの情報がありましたが、対応に苦慮していました。

翌日以降に被害調査に行くと、豊川信金蔵子支店交差点西側１００mで３０％、蔵子３丁目交差点南側及び東側で３０％、寄付公園北側及び西側で３０％の冠水などが確認されました。

その後、組長会でヒアリングするも、町内会家屋の水害被害の報告はありませんでした。ところが、９月になってから、６月２日の午後７時半に蔵子３丁目内１世帯の方が自宅玄関まで冠水してきたため桜町地区市民館へ避難したことが判明し、災害申請書の用紙を渡して対応しました。

＜野畔＞

対応が難しい外国人町民

福田 初好（野畔区長）

野畔自治会において、６月２日の水害では冠水自体が１０％程度であり、団地の建物が地面より１メートル高いため、被害はほとんど受けませんでした。ただし、居住している２名の外国人の方が「車庫証明を欲しい」と私のところへ来られました。団地内での被害ではなく帰宅時におけるだと被害と思われます。

団地に居住している人は日本人以外に、中国、フィリピン、ベトナム、ブラジル、ボリビア、ペルー、インドネシアの７つの国の方がいますので、避難してくださいと連絡することが難しいと思われます。ただし、スマートフォン、パソコン等で国別の言語の情報収集を得ることが出来るようです。

野畔団地では、５０年以上前には小田渕から名鉄線の下にある土管を通して水を流した時、建物下の空間に水が溜まり半月以上乾燥しなかったためにムカデ等の虫がわき、消毒したことがありました。

水害で冠水があった場合、周辺の道路事情が分からないので、避難するために動くより団地内にとどまった方が安全だと思います。車を高台に移動する時は、指定された駐車場が近くにはないため、途中の道路が４０％以上冠水した場合には動かない方が良いと思います。

被害があった各町内会の内訳				
町内会	世帯数	床上浸水	床下浸水	車両
小田渕	３７０	８１	１０５	１４４
蔵子	４６１	５４	１５８	１４３
桜町	１６２	１４	３４	７７



コラム

～サクラマチ消防団の奮闘～

２０２３年は池井戸潤作のミステリー小説「ハヤブサ消防団」がテレビドラマ化して話題となりましたが、豊川市では「サクラマチ消防団」が奮闘しました。

６月２日、午前９時過ぎに佐奈川が水防団待機水位を越え、豊川市消防団第４方面隊桜町分団（鈴木隆太分団長）の団員たちは河川巡視を開始。白川などで越水が発生すると、西分署へ土のうの確保に追われました。日が落ちるころには桜町地区市民館前や、分団の詰所付近で冠水が発生。水流で避難所となっている市民館へたどり着けず、連区に呼び掛けて桜町小学校の体育館を開放してもらい、臨時避難所を設営しました。

周辺道路では動けなくなった車に取り残される人が続出したため、団員らはライフジャケットを着て腰あたりの高さの水をかき分け、運転手らを車から降ろし、避難所へ連れて行きました。車内に残ろうとする人への説得に追われたり、ドアが開かずパニックに陥ってしまう人もいましたが、何とか全員を避難所へ誘導。ずぶ濡れになった人たちに防寒具を渡し、詰所から持ってきたカセットコンロで作った温かいスープを振る舞うと、皆さんに落ち着きが戻ってきました。一時は水が体育館の床上まで１０センチほどに迫り、避難者を高さのあるステージへ移動させることも検討しましたが、午後１１時ごろには雨脚が弱まり、水位も下がり始めました。体育館では６０人近くが一夜を過ごしました。

鈴木分団長は「とにかく怪我人や亡くなった方がいなくて良かった」と安堵する一方で、「防災倉庫にある物資も地震を想定しているため、低い位置にあった物はほとんど水に浸かって駄目になってしまった。水害も想定した備えが必要です」と課題を明かしました。「まさか自分が分団長を務める年にこのような災害が起きると思いませんでしたが、この経験を周りに伝えて次の災害の教訓にできればと思います」。



←スープや防寒具を提供した桜町小学校体育館の避難所



９月の豊川市消防操法大会に臨む市消防団
第４方面隊桜町分団→

分団名	第1方面隊				第2方面隊				第3方面隊				第4方面隊				第5方面隊				第6方面隊				第7方面隊				第8方面隊				計
種別	豊川	当古	三蔵子	三上	牛久保	下郷	中条	千両	平尾	諏訪	国府	御油	桜町	一宮第1	一宮第2	一宮第3	萩	長沢	赤坂	御津第1	御津第2	御津第3	小坂井第1	小坂井第2	小坂井第3	小坂井第4							
基本団員	9	12	15	13	15	12	6	15	13	6	16	13	12	13	8	9	9	11	13	9	12	12	12	13	14	9	316						
支援団員		2	1	1	2	0	0	2	3	0	3	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	21							
出動人員	9	14	16	14	17	12	6	17	16	6	19	13	14	13	8	9	9	12	13	10	12	12	13	15	10	337							
活動件数																																	
河川巡視		4	2	9	2	6	7	1	3	6	6	4	3	2	1	5	2	4	3	1	4	6	3	6	6	10	106						
交通誘導					1	4		1			1		4		1	1		1						3		17							
土嚢積								1			1	2	1		1		3	1		1	6			1		18							
広報															1				1	1						3							
救助・安否確認等														1			1	1					1			4							
避難誘導													1													1							
車の移動								1	1													2				4							
その他の活動							1	2											2		1	5	1			12							

- ※その他
- ①排水溝の詰まりゴミを撤去した。
 - ②水没した車の運転手を自宅まで送り届けた。
 - ③水没危険個所に柵（カラーコーン）を設置した。

イオンモール豊川備忘録

6月2日の早朝7時、1時間雨量33^ミの降雨を受けてJ R飯田線が10時から順次運転の見合わせを決め、一部の従業員の通勤に影響が出ました。午後1時ごろ運休に追加があり、豊橋を午後2時27分発、豊川を同2時49分発以降は運休。名鉄も2時ごろに名古屋本線の運休が決まり、電車アクセスしかない従業員の店舗は、時短を認める判断をしました。

3時ぐらいまでは雨、風とも落ち着いていましたが、急に強い降雨に変わりました。3時半に西側A駐車場、出入口4が冠水し、部分封鎖を行いました。5時48分に災害警戒レベルが上がったと緊急速報が入りました。外周の用水路の水位が高くなり、西側が溢れ敷地への流入を確認。同時刻あたりに蔵子にお住いの方から屋上駐車場へ自家用車を避難させて良いか電話連絡が入り、屋上階の開放を判断しました。地域にお住まいの方が避難できるよう外構部、屋上階の照明と、時間外でも利用できるトイレの開放を準備しました。

午後7時ごろ、名鉄豊川線、豊鉄バスが運休となり、公共交通機関がすべてなくなりました。従業員、お客さまの帰宅が困難な状態になり、従業員休憩室の開放も判断しました。このころ、東側用水路が溢れ、兎足東の信号機周辺や店舗入口も冠水しました。それでもイオンモール、総合スーパー・イオンスタイルは営業時間を短縮せず、お客さまからは「緊急に必要な物資の購入ができた」との声をいただきました。

午後10時45分に雨脚が弱まり、冠水していたエリアの水位が下がり路面が見えるようになってきました。屋上階に駐車している車両すべてに声掛けし、トイレ利用のエレベーターを案内。駐車台数78台（うち車中泊は24組）を確認しました。翌日の深夜1時、従業員休憩室で待機していた従業員25名が周辺道路の水位が下がったエリアから帰宅しましたが、国道1号線方面で翌朝までに帰宅できなかった従業員は11名いました。



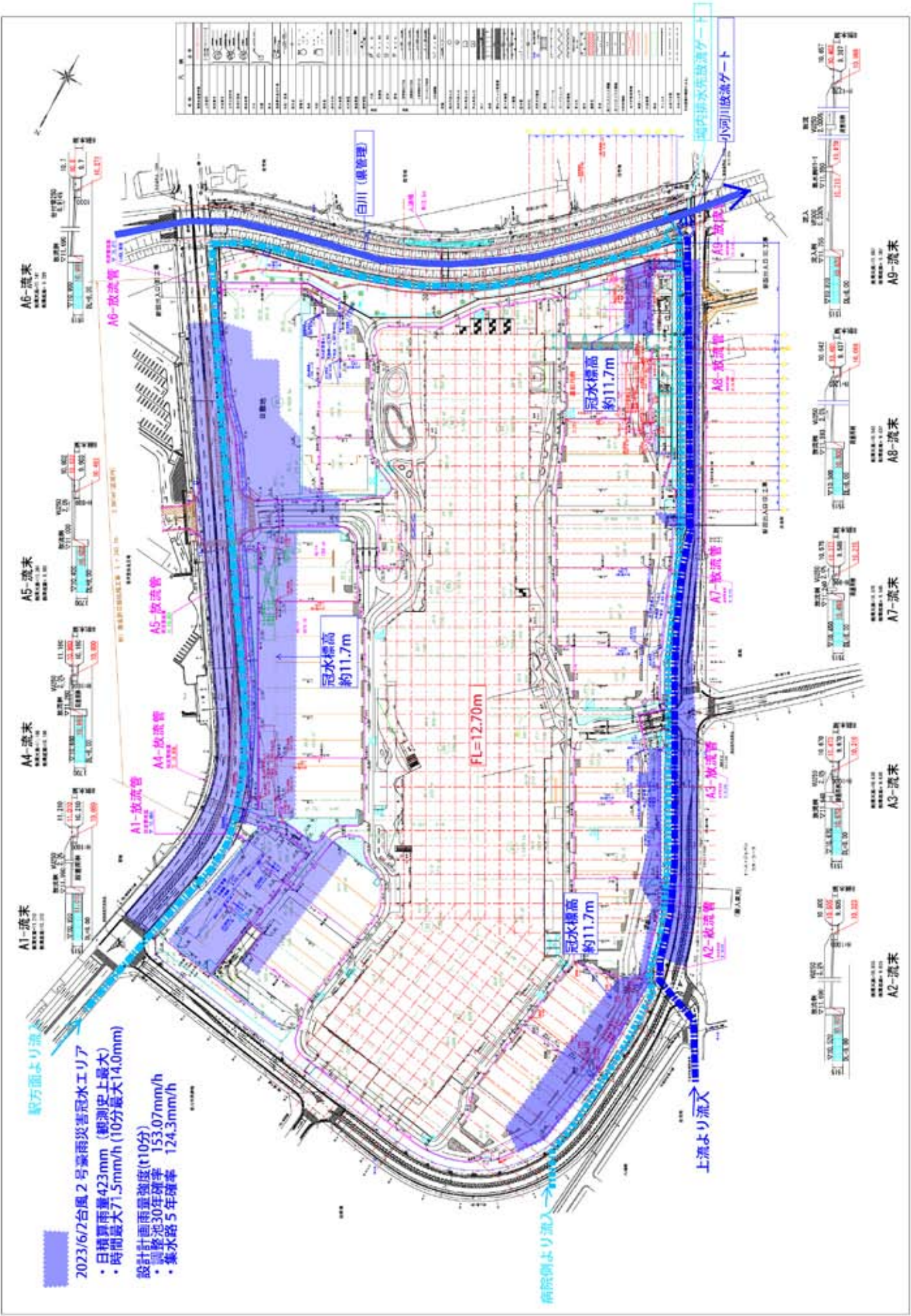
冠水した駐車場



敷地内の道路も冠水



樹木が流入



コラム
～イオンモールの支援～

今回の大雨で、オープンしてまだ2カ月だった大型商業施設イオンモール豊川が、大きな役割を果たしました。

6月2日夕方から施設周辺でも道路の冠水が相次ぎ、車で店舗から出られず帰宅できない来店客が続出。イオンモール側は急きょ、地上3階建ての店舗の屋上駐車場を開放し、営業時間が過ぎた後の深夜も照明の点灯を消さずに、被災者を受け入れてくれました。イオンモールによると、最大で78台が屋上駐車場に避難し、うち24組が車中泊で一夜を過ごしました。

また、再び大雨の予報となった6月8日夜から翌朝にかけても、車の緊急避難先として屋上駐車場を開放する措置を取り、桜町連区を通して事前に周知しました。本来、駐車場は入庫4時間までが無料ですが、周辺道路の渋滞緩和のため、当面は無料開放されています。地域に新たに誕生したショッピングセンターが、こういった形で協力してくれるのは本当に心強いことです。

8月末には、イオンモール内で子どもたちに防災を学ぶ機会を提供する「全国防災キャラバン」のキックオフイベントが開催。ボーイスカウトの子どもたちと一緒に、安全な素材のカラーブロックを崩してブロック塀の倒壊の危険性を疑似体験したり、高齢者や障害者らの感覚や気持ちを知らうと、軍手をはめてボタンで手遊びするなどの体験も行いました。



カラーブロックでブロック塀の危険性を学ぶ子どもたち



災害時に一般開放されたイオンモール豊川の屋上駐車場

令和5年6月2日の豊川市における豪雨被害に伴うボランティアコーディネートの実績

No.	ボランティア要請 (ニーズ件数)	内容・詳細	派遣件数	活動人数	活動者内訳			センター運営 (ボランティアコーディネーターの会)	ニーズの 件数	ボランティア活動希望の相談数	
					ボランティア	社協職員	市職員			市内在住者	市外在住者 (今回対象外)
6月4日	1	〔東上町在住〕 床上浸水した家屋等（災害ごみ）の搬出作業手伝い。 運搬用車両の手配。			0	0	0	0	0	3	2
6月5日	6	災害ごみの片付け 泥の掻き出し 市民協働国際課へ調整 1件			0	0	0	0	1	15	3
6月6日	5	搬運びだし 汚泥処理	2	9	9	0	0	5	0	11	3
6月7日	4	災害ごみの片付け 農機具・農家の農業 資の処分 風地に砂が流入。砂の除去 応へ調整依頼 1件	1	8	2	3	3	4	1	7	2
6月8日	2	家財の処分場への運搬 (2件)	6	29	16	7	6	5	0	2	1
6月9日	6	災害ごみの処分（床上50cmほどあった土壁）の運搬	5	29	15	10	4	4	0	1	3
6月10日	4	搬運びだし 浸水状況確認（専門V派遣）2件 自宅外壁の洗浄	6	29	18	10	1	5	0	0	2
6月11日	1	雨天のためボランティア派遣中止 ※ボランティアコーディネーターの会から職員に対しセンター運営についてレクチャーを行った。	-	-	0	「10」	「1」	7	0	0	0
6月12日	5	家財の搬出 2件 冷蔵庫の直先への移動 ビニールハウスの清掃	3	23	9	10	4	3	0	1	0
6月13日	4	泥の掻き出し 災害ごみの搬出 2件 自宅近くに漂着した重量物の搬出	4	25	8	10	7	4	0	0	0
6月14日	3	家財の搬出 床下を乾かす送風機借用	4	27	15	10	2	3	0	0	0
6月15日	3	家財の搬出	1	4	0	4	0	3	0	0	1
6月16日	2	・床下の断熱材を壁外へ移動 ・家財（本箱3つ、食器箱1つ、整理たんず1つ）を壁外へ移動 災害ボランティア一閉鎖（通常のボランティアセンターで対応）	3	26	14	9	3	3	0	1	0
6月17日											
6月18日											
6月19日	2	・家財の搬出 ・床下の断熱材を深田処分場へ搬入	2	13	0	13	0	0	0	0	0
6月20日	0		1	5	0	5	0	0	0	0	0
6月21日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月22日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月23日	0		1	9	0	9	0	0	0	0	0
6月24日											
6月25日											
6月26日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0

6月27日	1	家財の搬出	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6月28日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月29日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月30日	1	市と協議の上、災害ボランティアセンター再開設（～8/31予定）	1	7	4	2	1	0	0	0	0
7月1日											
7月2日											
7月3日	6	・家財の搬出 ・かわせみの連絡調整等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月4日	2	・床上浸水宅の今後の相談 ・浸水宅の身内の安否確認	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月5日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月6日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月7日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月8日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月9日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月10日	2	かわせみへ連絡調整等（2件）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月11日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月12日	0		1	5	2	3	0	0	0	0	0
7月13日	1	かわせみへ連絡調整等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月14日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月15日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月16日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月17日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月18日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月19日	1	不慮ごみ運搬依頼	1	1	0	1	0	0	0	0	0
7月20日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月21日	0		1	5	4	1	0	0	0	0	0
7月22日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0

7月23日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月24日	2	土壁の土の土壌片付け 家屋調査依頼	1	1	0	1	0	0	0	0	0
7月25日	1	家屋調査依頼	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7月26日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月27日	1	エコキュート調査依頼	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7月28日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月29日	0		1	1	0	1	0	1	0	0	0
7月30日	0		1	2	0	2	0	1	0	0	0
7月31日	2	かわせみ支援後に発生した家財・土嚢袋等の搬出（2件）	1	1	0	1	0	0	0	0	0
8月1日	2	かわせみ活動と並行して、被災宅の床板移動、床下清掃、泥の掻き作業	2	2	0	2	0	0	0	0	2
8月2日	0		0	0	0	0	0	0	0	2	0
8月3日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月4日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月5日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月6日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月7日	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月8日	2	・かわせみ支援後に発生した家財・土嚢袋等の搬出 ・乾燥機の貸し出し希望	1	1	0	1	0	0	0	1	0
8月9日	1	ごみの運搬	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月10日											
8月11日											
8月12日											
8月13日											
8月14日											
計	73		50	262	116	115	31	48	2	44	22

第三章 桜町連区の働きかけ

桜町連区の働きかけ

「１００年に一度」とも言われる水害に見舞われながら、復興のあゆみを進めてきた桜町連区。今回の経験を教訓に、次に起こる災害に備えるため、元市議員として行政との太いパイプを持つ鈴川智彦連区長と各町内役員が中心となり、豊川市への働きかけや連区独自の取り組みを展開してきました。

２週間後に設置されたカメラ

今回の大雨では河川の氾濫や内水氾濫が起きたことを受けて、桜町連区はすぐに新たな河川監視カメラの設置を豊川市に求めました。６月中旬、市は蔵子の白川に架かる念仏橋付近に、新たなカメラを設置。イオンモール豊川のすぐ南側で、代田川との合流地点から下級に約３５０㍍の位置にあり、２日の大雨では付近で冠水被害が発生していました。迅速な市の対応に感謝しています。

カメラの映像は市ホームページの河川情報からリアルタイムで見ることができ、画像は５分おきに更新されます。音羽川や佐奈川、西古瀬川など市内を流れる河川沿い９カ所に加え、国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所が管理する豊川水系のカメラも見ることができます。

※市内の河川監視カメラ一覧（64㍻）参照。



白川に設置された監視カメラ。後方はイオンモール豊川→



白川の念仏橋付近を移したカメラ映像

市にも災害見舞金を支給すると発表したことで実現しました。支給額は、１世帯あたり５０００円となりました。

また、浸水被害が深刻だった蔵子の諏訪川や、小田渚の佐奈川付近にも今後、新たな河川監視カメラの設置を検討することを要望しました。

定期的に創る啓発の機会

７月には、桜町地区市民館で第１回水害対策会議を開きました。連区役員や各区長、防災士や防災リーダー、市民館・小学校避難所対策員、消防団員や、浸水の被災者ら２０人が参加しました。

市の提供資料から、６月２日の大雨における時間ごとの降雨量や河川の水位、市民館と小学校体育館への避難者数、地区ごとの詳しい被災状況の報告が行われ、元蔵子区長の近藤保治さんが自宅の床上浸水の経過や生活用品の被災状況、復旧具合などを説明しました。



第１回水害対策会議

７月１４日には、愛知１４区選出の今枝宗一郎衆院議員による災害対策を考える会合が開かれ、会場の桜町地区市民館には関係者ら約５０人が参加しました。

今枝氏は、早急に予算委員会を開いて今回の水害を「激甚災害」に認定してもらった経緯や、新型コロナウイルス感染症が５類に移行したことで今後の経済活動が活発化することを期待しました。

また、国土交通省中部地方整備局の吉田光則防災室長と浅井聡防災マネジメント室長を講師に招き、６月２日の気象条件や被災状況、豊川流域の出水などを説明してもらいました。

出席者からは河川の越水対策に関する質問があり、県への要望で佐奈川、白川、諏訪川の堤防では渇水期に対策工事を予定していることなどが報告されました。

水害で変わった住民の意識

８月２７日には地区市民館で防災研修会を開き、地域住民ら約６０人が参加しました。

市危機管理課の木内久見課長が、改めて６月２日の降雨量や市内の被害実態、中でも桜町連区に該当する蔵子、桜町、小田渚で床上・床下浸水の被害が集中したことを報告し、「広報とよかわ」９月号で詳細を掲載して市民に周知することを強調しました。

豊橋市岩田校区自主防災会の山口智雄会長は、子どもたちを通じて大人も巻き込んだ啓発活動や、ペットの避難についても説明しました。

市消防署員による救命救急講習では、マネキンを使って胸骨圧迫やＡＥＤの取り扱いについて学び、町民らが心肺蘇生法を実践しました。

１０月８日には、６月の大雨で避難所にもなった桜町小学校で毎年恒例の防災訓練を実施し、町民ら約３００人が参加しました。市職員や地域の消防団員、各委員らが指導する形で、町内会ごとにさまざまな訓練を体験しました。水害の記憶が新しいこともあり、今年は初めて土のうの作成訓練を実施したほか、市消防本部本署の救急車の車内見学や機材体験、マンホールトイレの設置や三角巾による止血訓練などにも臨みました。

参加者の中には被災した人たちも多く、訓練では子どもからお年寄りまでが積極的に体験しようとする姿が見られ、真剣な表情から意識の高さを感じられました。

来賓で竹本市長や今枝衆院議員、地元選出の県議、イオンモール豊川の渉外部長、榮名利幸さんらも来場しました。



今枝議員と防災を考える会合



研修会には多くの町民が参加し、防災について考えた



土のうの作成訓練を体験する子どもや女性



救急車の機材の見学・体験も行われた

コラム

～故郷を勇気づけるアスリートたち～

東三河豪雨から約2週間後の6月15日と20日、サッカー日本代表の国際親善試合が国内で行われました。エルサルバドル戦とペルー戦の両試合に右サイドバックとして先発出場し、ピッチを駆け抜けたのが、豊川市蔵子で生まれ育ったディフェンダー菅原選手（23、オランダ・AZアルクマール）でした。積極的に攻撃に絡み、守備でも勝利に貢献した姿に、テレビ解説を務めていた元日本代表監督の岡田武史さんから称賛する一幕もありました。

その後、11月のワールドカップ（W杯）アジア2次予選のミャンマー戦、シリア戦のメンバーにも召集された菅原選手。シリア戦では後半2分、ペナルティーエリア手前でのフリーキックで、豪快な右足ミドルシュートをゴール右隅に決め、記念すべき代表初ゴールを挙げました。

菅原選手は桜町小学校、代田中学校を卒業後、17歳で名古屋グランパスエイトでプロデビューを果たし、現在はオランダリーグでプレーしています。2026年のW杯では、東三河初のW杯プレーヤーとしての活躍が期待されています。

また、同じく桜町出身のサッカー選手、ミッドフィルダー小原基樹選手（23）は、J2の水戸ホーリーホックでプレーしています。今季は8月の栃木戦で2ゴールを挙げるなど、10月までに6得点をマークしています。

彼らの活躍は、水害に見舞われた地元の人々を勇気づけてくれています。



←シリア戦での菅原選手の代表初ゴールを、日本サッカー協会の公式X（旧ツイッター）も速報で伝えた



J2水戸ホーリーホックで主力として活躍している小原選手→

第四章

次の災害に備える

次の災害に備える

未曾有の災害は、いつ再び起きるか分かりません。私たちにできることは、今回の記録的豪雨による被害で得た教訓を生かし、防災力を高めることです。水害だけではなく、南海トラフ地震の発生も危惧されています。私たちの命や生活を守るため、時代に合わせた迅速な情報収集、避難行動を心掛けることが求められます。

情報共有に役立つＳＮＳ

6月2日の大雨では、冠水した道路や河川の氾濫情報で行政の情報発信の課題が浮き彫りになった反面で、市民によるＳＮＳを通じた情報発信が活躍しました。

豊川市では2日、道路の冠水がちょうど夕方の帰宅時間帯を直撃し、多くの車が水に浸かって動けなくなったり、渋滞にはまって立ち往生しました。日が暮れても自宅にたどり着けず、市から配信される情報は避難対象地域や避難場所の情報だけでした。そんな時に活躍したのが、X（旧ツイッター）やフェイスブック、InstagramといったＳＮＳでした。「小坂井の宮下交差点で冠水して身動き取れません」「国道23号が大渋滞で完全ストップ」「イオンモール周辺も冠水。屋上で一晩過ごした方が安全ですよ」

これらはＳＮＳで発信された一般市民らの言葉です。運転手や近隣住民らがスマートフォンを片手に、積極的に投稿して情報を拡散。中には浸水した道路に車が沈んだ写真や、地図に赤い線を引いて「このエリアは冠水がひどい」などと具体的な情報で危険回避を呼び掛ける人もいました。

市はホームページや防災アプリ、安心メール、防災無線で避難情報を配信していましたが、市議会が若い世代にツイッターの利用者が多いことに着目し、市にツイッターでの配信も依頼。午後8時過ぎから、急ぎょツイッターの公式アカウントでも配信を始めました。佐奈川が氾濫している可能性を知らせる最初の投稿には、実に7万以上もの閲覧数がつきました。

冠水や通行止め、河川の氾濫など、状況が刻一刻と変わり、迅速な情報が求められる事態では、インターネット上で市民らの`共助、が効果を発揮します。



CCNet 豊川局も周辺の道路状況を公式ツイッターで配信し、市民に注意を呼び掛けた

緊急情報をいち早く入手する

スマートフォンが普及した現代、豊川市が運営する防災アプリ（無料）は有効です。「持ち歩く防災対策」として、ダウンロードしておくことを推奨します。

市の防災情報などがプッシュ通知で届くアプリで、雨の音や場所によっては聞き取れない場合もある屋外スピーカーからの放送内容などを文字と音声で受け取れる「お知らせ機能」をはじめ、天気・気象情報（警報・注意報・地震・津波情報）が確認できる「天気・気象機能」、市内の避難所などを確認できる「防災マップ機能」がついています。



豊川市防災アプリのトップ画面

また、市は緊急情報を受信できる戸別受信機を、1台2,000円で市民に貸与しています。

戸別受信機は屋外スピーカーからの放送内容を受信し、音声と共に自動で起動して知らせます。1辺約10センチの正方形で、家庭のリビングなどに設置しやすいです。

気象や津波、噴火に関する特別警報、避難情報といった緊急情報、緊急地震速報や、弾道ミサイル攻撃などを知らせるJアラートの際には画面が赤く点滅し、最大音量で放送します。行方不明者や食中毒、新型コロナウイルス感染症、有害鳥獣駆除などに関するお知らせ情報は画面が青く点滅し、各自の設定音量で放送します。

時計表示、アラーム、AM・FMラジオ機能もあるほか、過去の放送は最大10件まで保存され、放送を未確認の場合は画面が点灯し続けます。

1世帯（1施設）につき1台まで、市役所敷地内の防災センター1階で受け付けています。



防災アプリ・iPhone用



防災アプリ・Android用



戸別受信機

盛土造成地を把握しておく

大雨に関して、市が公表している「大規模盛土造成地マップ」を確認しておくことも大切です。

大規模盛土造成地は、谷や沢を埋めた盛土の面積が3 0 0 0平方㍍以上の「谷埋め型」と、盛り土前の地盤面の水平面に対する角度が20 度以上で、盛り土の高さが5 ㍍以上ある「腹付け型」のいずれかの要件を満たす場所を指します。

国のガイドラインに基づいて作成された造成地マップは、昭和 30、40 年代と平成 29 年の地形図を重ね合わせ、その標高差などから大規模盛土造成地を抽出し、分布状況を地図に反映させてあります。桜町連区内に該当地域はありませんが、旧宝飯郡音羽地区や一宮地区などに確認されています。

盛土造成地は必ずしも危険というわけではありませんが、阪神・淡路大震災や新潟中越地震では同様の地形で滑動崩落が発生。2 0 2 1 年 7 月に静岡県熱海市伊豆山地区で発生した大規模な土石流災害も、盛土の崩落が原因とされています。



大規模盛土造成地マップの音羽地区には複数の該当地域が色付けされている

自宅に安全な空間を確保する

南海トラフ地震などの巨大地震への備えも重要です。桜町連区では最大で震度6 強～7 の激しい揺れが想定されており、築年数が経過した木造住宅にお住まいの方は、市が行っている耐震改修補助事業を活用することをお勧めします。

木造無料耐震診断を受けた住宅を対象に、上限 30 万円でシェルターの設置費を補助。自宅の寝室などに設置することで、揺れによる家屋や家具の倒壊から身を守る空間を設けることができます。

補助対象となっているシェルターは会社によってさまざまな種類があり、毎年、ゆうあいの里ふれあいセンター（平尾町）や御津福祉保健センター（御津町）といった高齢者の利用が多い施設で、実物が展示される期間があります。



耐震シェルター展示

災害の歴史から学ぶ

過去の災害の歴史を把握しておくことも、次の災害に備える手立てとなります。市防災センターは、市内における災害の歴史をまとめ、防災の教訓にしてもらおうと「災害に学ぶ—とよかわ防災史話—」（2 0 2 1 年 3 月初版）を公開しています。第 2 版として発刊された改訂版には、新たに 6 月 2 日の豪雨も盛り込まれており、市ホームページからダウンロードできます。

全 31 頁のカラーで、主に自然災害と地形、市域における災害の歴史、災害対応のあゆみ、災害にまつわる伝承・記念碑・関連史跡、水害アーカイブ写真が掲載されています。災害の歴史では、風水害、地震・津波、火災、そのほか（噴火・干ばつ・飢餓・疫病・戦災）の 4 項目で紹介しており、古くは奈良時代の疫病や干ばつ、江戸時代に旧東海道の宿場町で起きた大火なども取り上げています。

災害対策では御津臨海地区に整備された避難誘導装置や避難階段なども紹介。水害アーカイブ写真では市内 8 カ所で災害発生時と現在の写真を今昔対比しており、歴史資料としても大変貴重な資料となっています。



■豊川市防災センター1階の豊川まるごとプロジェクション等でも各種防災情報を入手できます



■昭和 28 年の 13 号台風による高潮被害（御津町） ■大雨による氾濫状況（小坂井町：R5.6.3 朝撮影）

1 はじめに・・・・・・・・・・ P1

2 自然災害と地形・・・・・・・・ P2

3 市域における災害の歴史・・・・ P4

4 災害対応のあゆみ・・・・・・・・ P16

5 災害にまつわる伝承・記念碑・関連史跡・・・ P20

6 水害アーカイブ写真（今昔対比）・・・・ P24

<参考資料> 引用・参考文献、豊川市災害年表・・・ P26

第 2 版令和 5 年 8 月発行（初版令和 3 年 1 月）

豊川市防災センター

6 水害アーカイブ写真（今昔対比）



■昭和12年7月大雨による洪水（土筒神明社の冠水写真と現在：神明社入口）



■昭和12年7月大雨による洪水（当古町秋葉神社前の旧姫街道の冠水写真と現在：秋葉神社南）



■昭和28年台風13号による高潮被害（御津町大草海岸の大破した堤防と現在の堤防：大草橋付近）



■昭和28年台風13号による洪水（小坂井町旧国道1号の冠水写真と現在：善光寺川万石橋付近）



コラム

～ハザードマップの死角～

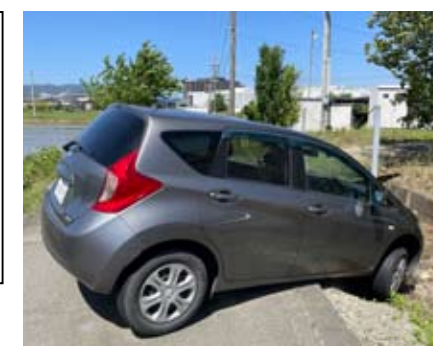
豊川市は洪水ハザードマップを作成し、市民に配布していますが、「内水氾濫」を想定していないため、6月の豪雨では佐奈川水系の地図では浸水が想定されていない場所で、実際に浸水被害が発生しました。地図通りに受け止めるのは禁物です。

2月に改訂版として作成された「洪水ハザードマップ2023」では豊川・豊川放水路、音羽川、佐奈川の各河川水系と、高潮の浸水予想図を掲載。水深によってピンクや黄色の6段階で色分けされており、各地域の浸水想定規模の参考となります。

しかし、想定図に「このシミュレーションは、対象外の河川及び内水による氾濫等を考慮していません」と明記されているように、あくまで河川が破堤・溢水・越水で氾濫した場合の浸水状況であり、下水道といった排水施設の能力を超えた雨が降った時などに排水できなくなり浸水する「内水氾濫」の事態は想定しておりません。

実際、6月の大雨では、佐奈川水系のハザードマップでは浸水が想定されていない、地図上では無色のイオンモール豊川の西側や、国道1号の交差点「京次」付近でも浸水が発生しました。ちなみに音羽川水系のハザードマップでは、これらの場所は浸水が想定されています。

雨の降り方次第では地図に表示されていない場所で浸水する可能性が十分にあるため、的確な情報収集と迅速な避難行動が求められます。



ハザードマップの矢印の場所で浸水し、乗り捨てられた車。後方はイオンモール豊川→



さまざまな防災対策

市が発令する避難情報は、警戒レベル3以上となります。警戒レベル4「避難指示」までには、必ず避難できるようにしましょう。

警戒レベル	避難情報	とるべき避難行動
5	緊急安全確保	既に災害が発生している、または切迫している状況であり、直ちに安全を確保する
4	避難指示	速やかに危険な場所から 全員避難
3	高齢者等避難	避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は危険な場所から避難

台風や大雨による風水害から「避難する」＝「安全を確保する行動をとる」ことです。浸水の恐れがない自宅の2階や近くの高いビルに避難する「垂直避難」や、安全な親戚・知人宅へ避難することを検討しましょう。ご自身で避難先を確保できない方は避難所へ避難してください。

また、市が開設する避難所へ避難する場合は、食料品や毛布等の持参をお願いします。

「避難」とは「安全を確保する行動をとる」ことです



垂直避難

土砂災害・浸水の恐れがない自宅の上階や近くのビルなど、高い場所に避難する

※ご自身で避難先を確保できない場合は、避難所へ避難してください。雨や風が強くなる前の早めの行動が、命を守ることに繋がります。



親戚宅などへ避難

安全な場所に住む親戚・知人宅へ避難する（あらかじめ話をしておくがスムーズです）

在宅避難（垂直避難）	食料、飲料水、衛生用品や携帯トイレなどの備蓄が必要です。停電や断水の恐れがありますので、何がどのくらい必要か、日ごろから確認し備えておきましょう。
親族宅などに避難（縁故避難）	水害時に避難が必要な場所に自宅がある場合で、親族・友人宅が安全な場所にある場合は、親族・友人宅に避難することも事前に検討しましょう。
頑丈な建物や避難所などに避難	在宅避難や親族・友人宅への避難が難しい場合は、頑丈な建物や避難所など安全な場所に避難してください。自宅周辺の避難所を事前に確認しましょう。

防災情報伝達システム

防災情報や、安全安心に関する情報を、市内に121箇所ある屋外スピーカーで放送します。放送された内容は、防災アプリや戸別受信機（※）でも確認できます。

※希望する世帯に1台2000円で貸与を行っています。

主な緊急放送の内容

- 避難情報（警戒レベル3以上が発令された場合）
- 土砂災害警戒情報
- 南海トラフ地震関連情報
- 緊急地震速報（市内で震度4以上の揺れを予測した場合）



市ホームページ

ハザードマップや避難所一覧、河川情報など、災害時に役立つ情報を掲載しています。

災害時における避難所開設などの緊急情報については、市ホームページのトップページで随時情報提供を行います。



市ホームページ
防災情報は
こちら



とよかわ安心メール

大雨・暴風警報などの気象情報を、気象庁の発表に応じてメールで自動配信します。toyokawa@entry.mail-dpt.jpに空メールを送信して登録してください。



こちらからも
登録できます

豊川市内の河川ライブカメラ



豊川市内の河川監視カメラ設置場所

河川ライブカメラリンク一覧

丸山橋（紫川）	岩田2号橋（山陰川）	御津橋（御津川）	佐奈橋（佐奈川）	四ツ谷橋（佐奈川）
新屋橋（白川）	川田橋（西古瀬川）	念仏橋（白川）	豊成橋（音羽川）	豊川・豊川放水路

避難所一覧表

指定避難所						洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 高潮 地震 津波 火事					
名 称	住 所	災害種別	名 称	住 所	災害種別						
東部中学校	豊川市西豊町2丁目191	洪水 地震	平尾小学校	豊川市平尾町上貝津2-5	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
豊小学校	豊川市東豊町4丁目60	洪水 地震	平尾地区市民館	豊川市平尾町中貝津2	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
豊川生涯学習センター	豊川市西豊町2丁目225	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震	ふれあいセンター	豊川市平尾町親坂36	洪水 地震						
豊地区市民館	豊川市東豊町4丁目53	洪水 地震	西部中学校	豊川市国府町岡本24-2	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
東部小学校	豊川市三谷原町石坪1-1	地震	国府小学校	豊川市国府町寒若寺6-1	洪水 地震						
三上地区市民館	豊川市三上町天神前14-3	地震	国府高等学校	豊川市国府町下坊入10-1	洪水 地震						
睦美地区市民館	豊川市三谷原町村前15	洪水 地震	コミュニティセンター国府市民館	豊川市国府町下河原62-1	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
麻生地区市民館	豊川市麻生町寺前10	地震	国府東地区市民館	豊川市久保町社地7-1	洪水 地震						
豊川小学校	豊川市北浦町31-1	洪水 地震	御油小学校	豊川市御油町膳ノ棚1-4	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
豊川高等学校	豊川市末広通1丁目37	洪水 地震	御油生涯学習センター	豊川市御油町美世郷185-1	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
古宿地区市民館	豊川市中央通2丁目55	洪水 地震	一宮中学校	豊川市一宮町上新切33-247	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
桜木小学校	豊川市小桜町17	洪水 地震	一宮東部小学校	豊川市上長山町東水神平44-2	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
桜木地区市民館	豊川市東光町3丁目9	洪水 地震	健康福祉センター	豊川市上長山町本宮下1-1685	洪水 地震						
桜ヶ丘ミュージアム	豊川市桜ヶ丘町79-2	洪水 地震	一宮生涯学習センター	豊川市上長山町小南口原1-500	洪水 地震						
金屋中学校	豊川市金屋西町1丁目2	洪水 地震	一宮体育センター	豊川市一宮町上新切33-259	洪水 地震						
金屋小学校	豊川市金屋西町1丁目1	洪水 地震	農業者トレーニングセンター	豊川市一宮町豊1	洪水 地震						
金屋地区市民館	豊川市金屋本町1丁目61-1	洪水 地震	一宮西部小学校	豊川市一宮町緑1	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
金屋南地区市民館	豊川市金屋橋町59-1	洪水 地震	一宮南部小学校	豊川市豊津町新地4	洪水 地震						
三蔵子小学校	豊川市三蔵子町宮前32	洪水 地震	長慶寺	豊川市金沢町藤弦3・4合地	洪水 地震						
三蔵子地区市民館	豊川市大崎町小林87	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震	音羽中学校	豊川市赤坂町西縄手66	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
南部中学校	豊川市光明町2丁目42	洪水 地震	赤坂小学校	豊川市赤坂町東山140	洪水 地震						
中部小学校	豊川市中部町1丁目1	洪水 地震	赤坂台地区市民館	豊川市赤坂台1608	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
中部西地区市民館	豊川市萩山町1丁目52-2	洪水 地震	音羽文化ホール	豊川市赤坂町松本250	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
中部南地区市民館	豊川市高見町5丁目5	洪水 地震	音羽福祉保健センター	豊川市赤坂町狭石1	洪水 地震						
牛久保小学校	豊川市牛久保町大手10-2	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震	音羽生涯学習センター	豊川市赤坂町西裏47-1	洪水 地震						
牛久保生涯学習センター	豊川市牛久保町若子52-1	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震	萩小学校	豊川市萩町岩田9-2	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
下長山地区市民館	豊川市下長山町堺111-1	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震	萩地区市民館	豊川市萩町塩ノ田75-1	洪水 地震						
天王小学校	豊川市牛久保町天王下14-1	洪水 地震	長沢小学校	豊川市長沢町午新88	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
下郷地区市民館	豊川市柑子町五反田160	洪水 地震	長沢地区市民館	豊川市長沢町午新122	洪水 地震						
中条地区市民館	豊川市中条町宮坪21-1	洪水 地震	御津中学校	豊川市御津町坪野山下20	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
代田中学校	豊川市代田町1丁目20-1	洪水 地震	御津南部小学校	豊川市御津町御馬加美15	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
代田小学校	豊川市代田町1丁目20-2	洪水 地震	西方地区市民館	豊川市御津町西方宮長31	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
豊川工科高等学校	豊川市新道町1丁目3	洪水 地震	御馬地区市民館	豊川市御津町御馬西96	洪水 地震						
代田地区市民館	豊川市新道町2丁目42	洪水 地震	御津生涯学習センター	豊川市御津町西方日暮30	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
諏訪地区市民館	豊川市諏訪3丁目242-1	洪水 地震	御津北部小学校	豊川市御津町広石神子田54-1	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
総合体育館	豊川市諏訪3丁目246	洪水 地震	御津高等学校	豊川市御津町豊沢松ノ下1	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
勤労福祉会館	豊川市新道町1丁目1-3	洪水 地震	広石地区市民館	豊川市御津町広石船津34-1	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
文化会館	豊川市代田町1丁目20-4	洪水 地震	御津体育館	豊川市御津町広石日暮148	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
桜町小学校	豊川市桜町2丁目7-45	洪水 地震	御津文化会館	豊川市御津町広石日暮146	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
桜町地区市民館	豊川市桜町3丁目1-5	洪水 地震	御津福祉保健センター	豊川市御津町広石枅ヶ坪88	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
中部中学校	豊川市市田町西浦41	洪水 地震	小坂井中学校	豊川市伊奈町古当103	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
八南小学校	豊川市野口町豊角8-1	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震	小坂井東小学校	豊川市小坂井町西浦87	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
八南生涯学習センター	豊川市野口町縄手下23	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震	小坂井高等学校	豊川市小坂井町欠田100-1	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
市田地区市民館	豊川市市田町山鳥47	洪水 地震	小坂井文化センター	豊川市伊奈町新町170-2	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
武道館	豊川市八幡町弥五郎105	洪水 地震	小坂井西小学校	豊川市伊奈町縫殿55-1	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
千両小学校	豊川市千両町数谷原18-2	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震	小坂井文化会館	豊川市伊奈町新屋97-2	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						
千両地区市民館	豊川市千両町小路8-4	洪水 地震	こざかい葵風館	豊川市小坂井町大堀10	洪水 崖崩れ、土石流及び地滑り 地震						

指定緊急避難場所

洪水
 崖崩れ、土石流及び地滑り
 高潮
 地震
 津波
 火事

名 称	住 所	災害種別	名 称	住 所	災害種別
曙公園	豊川市曙町3丁目8		牛久保児童遊園	豊川市牛久保町若子49-1	
曙グラウンド	豊川市曙町4丁目18-1		牛久保岸下公園	豊川市牛久保町岸下22-1	
曙児童遊園	豊川市曙町4丁目22		堺公園	豊川市堺町2丁目34	
曾通公園	豊川市東曙町122		下長山公園	豊川市下長山町岩下91-1	
麻生田児童遊園	豊川市麻生田町宮東39		新道公園	豊川市新道町2丁目42	
上野公園	豊川市上野2丁目284		瀬木ちびっ子広場	豊川市瀬木町替田7-58	
上野中どおり公園	豊川市上野3丁目13-1		高見公園	豊川市高見町4丁目84	
大橋公園	豊川市大橋町2丁目20		塔ノ木公園	豊川市塔ノ木町1丁目46	
太通公園	豊川市大堀町166		西島児童遊園	豊川市西島町藪下47	
礼通公園	豊川市大堀町97		西塚公園	豊川市西塚町1丁目32-2	
桜木公園	豊川市桜木通5丁目7		萩山公園	豊川市萩山町1丁目110	
古宿ちびっ子広場	豊川市新宿町1丁目91-1		萩山防災広場	豊川市萩山町3丁目77-5	
新豊児童遊園	豊川市新豊町1丁目111		正岡児童遊園	豊川市正岡町後田470	
住吉公園	豊川市住吉町2丁目112		松風公園	豊川市松風町27	
遠通公園	豊川市天神町23		南高見児童遊園	豊川市弥生町2丁目8	
東光公園	豊川市東光町2丁目71		能仁堂公園	豊川市四ツ谷町2丁目46-1	
当古公園	豊川市当古町野中35		新道下ちびっ子広場	豊川市市田町新道下19-18	
当古橋公園	豊川市当古町清水尻26		小田渕児童遊園	豊川市小田渕町下垂25-8	
和通公園	豊川市東名町1丁目63		小田渕本郷児童遊園	豊川市小田渕町7丁目176	
土筒児童遊園	豊川市土筒町前屋敷8		小田渕公園	豊川市小田渕町8丁目61-1	
三明公園	豊川市豊川町波通34-1		桜町児童遊園	豊川市桜町2丁目7-30	
駅東電車通公園	豊川市豊川町利通60-7		寄付公園	豊川市桜町3丁目11-1	
西桜木児童遊園	豊川市西桜木町1丁目51		諏訪西公園	豊川市諏訪西町2丁目158-2	
西豊公園	豊川市西豊町2丁目134		諏訪公園	豊川市諏訪3丁目130-1	
西豊児童遊園	豊川市西豊町3丁目155		向山公園	豊川市蔵子1丁目5	
市道公園	豊川市花井町12-1		農ヶ上公園	豊川市蔵子3丁目3	
縄手上公園	豊川市馬場町縄手上43		野中公園	豊川市蔵子4丁目7	
松下公園	豊川市馬場町松下69		蔵子児童遊園	豊川市蔵子6丁目13-7	
東桜木公園	豊川市東桜木町138		代田公園	豊川市代田町1丁目34	
豊公園	豊川市東豊町4丁目52		新道第2公園	豊川市新道町1丁目1-2	
東豊児童遊園	豊川市東豊町1丁目123		穂ノ原公園	豊川市穂ノ原2丁目1-16	
本野原第1公園	豊川市本野ヶ原3丁目59		豊川海軍工廠平和公園	豊川市穂ノ原3丁目13-2	
本野原第2公園	豊川市本野ヶ原1丁目160		赤塚山公園	豊川市市田町東堤上1-30	
牧野西公園	豊川市牧野町2丁目125		大崎公園	豊川市市田町東中野81	
さぬき屋敷公園	豊川市牧野町柳貝津50-1		数谷原児童遊園	豊川市千両町数谷原12	
三上児童遊園	豊川市三上町下屋敷55		下千両児童遊園	豊川市千両町宝辺37-1	
三上野地児童遊園	豊川市三上町野地56-1		西の谷ちびっ子広場	豊川市千両町上西の谷53-64	
稲荷公園	豊川市緑町32		西の谷第二ちびっ子広場	豊川市千両町下西の谷2-46	
緑町公園	豊川市緑町2		数谷原公園	豊川市南千両2丁目100	
美幸公園	豊川市美幸町2丁目58		野口児童遊園	豊川市野口町長万41	
谷川公園	豊川市谷川町天王167		平尾西公園	豊川市平尾町深田140	
大橋縄手公園	豊川市大橋町4丁目12		平尾南公園	豊川市平尾町番皿地内	
赤代児童遊園	豊川市赤代町2丁目5		平尾児童遊園	豊川市平尾町井の間90	
大崎児童遊園	豊川市大崎町小林89-2		弥五郎第一公園	豊川市八幡町鐘鋳場83	
金屋橋公園	豊川市金屋橋町48		弥五郎第二公園	豊川市八幡町下天王68	
金屋公園	豊川市金屋本町2丁目25		八幡児童遊園	豊川市八幡町西赤土1-1	
三蔵子公園	豊川市三蔵子町中荒古34		八幡上ノ蔵公園	豊川市八幡町上ノ蔵42-1	
中央通公園	豊川市中央通4丁目43		平尾東公園	豊川市平尾町八反田117	
長草児童遊園	豊川市長草町南2		スポーツ公園	豊川市千両町折橋20-1	
本野児童遊園	豊川市本野町東浦39		久保児童遊園	豊川市久保町社地3	
牛久保駅通公園	豊川市牛久保駅通5丁目1		桜田公園	豊川市国府町桜田133-1	
寺町公園	豊川市牛久保町八幡口45-3		山のちびっ子広場	豊川市国府町山の入47-15	

避難所一覧表

指定緊急避難場所

洪水
 崖崩れ、土石流及び地滑り
 高潮
 地震
 津波
 火事

名 称	住 所	災害種別	名 称	住 所	災害種別
上坊入ちびっ子広場	豊川市国府町上坊入45-18		赤坂2号公園	豊川市赤坂町大日308	
国府大社児童遊園	豊川市国府町流霞5-1		サンヒル赤坂東山中央公園	豊川市赤坂町東山444	
東山公園	豊川市御油町汲ヶ谷284-1		赤坂台1号公園	豊川市赤坂台1610	
一ノ坪公園	豊川市御油町一ノ坪93		赤坂台2号公園	豊川市赤坂台1615	
下河原公園	豊川市御油町下川原123		赤坂台3号公園	豊川市赤坂台1626	
栗木山公園	豊川市御油町栗木山185		グリーンヒル中公園	豊川市長沢町大覚212	
かけした公園	豊川市御油町欠下57		グリーンヒル北公園	豊川市長沢町大覚359	
御油児童遊園	豊川市御油町一ノ橋20-26		音羽運動公園	豊川市萩町口猿田2	
東沢児童遊園	豊川市御油町炮六土28-2		赤根ちびっ子広場	豊川市御津町赤根水神16	
東山第一ちびっ子広場	豊川市御油町汲ヶ谷2		遊泉寺ちびっ子広場	豊川市御津町赤根宮前17-1	
東山第二ちびっ子広場	豊川市御油町汲ヶ谷135		上佐脇ちびっ子広場	豊川市御津町上佐脇中区278	
御油東広場	豊川市八幡町大宝山8-11		上佐脇集落センター	豊川市御津町上佐脇屋敷47-3	
御油松並木公園	豊川市御油町並松20		構造改善センター下佐脇会館	豊川市御津町下佐脇宮本81	
青馬児童遊園	豊川市新青馬町1丁目1		西方児童遊園	豊川市御津町西方中屋敷43-2	
新栄児童遊園	豊川市新栄町3丁目75-1		西方駅前ちびっ子広場	豊川市御津町西方梨野3-4	
市木公園	豊川市為当町椎木31		広石千路児童遊園	豊川市御津町広石千路6-54	
椎木公園	豊川市為当町椎木297		小坂井拠点避難地	豊川市小坂井町倉屋敷75-1	
為当ちびっ子広場	豊川市為当町仲上63-6		南山グラウンド	豊川市伊奈町南山新田350-80	
為当稲荷神社児童遊園	豊川市為当町宮脇44		小坂井中央公園	豊川市伊奈町鐘殿26-49	
国府東ちびっ子広場	豊川市森4丁目68-38		サツキ公園	豊川市伊奈町新町116-1	
くすのき公園	豊川市八幡町大池3-3		東宮公園	豊川市篠東町東宮154	
上宿児童遊園	豊川市八幡町上宿13-1		シャグジ公園	豊川市篠東町東宮215	
足山田公民館	豊川市足山田町若宮5-1		平成公園	豊川市伊奈町新屋281	
足山田野球場	豊川市足山田町滝場33-1		やよい公園	豊川市宿町坂地217	
上新切東公園	豊川市一宮町旭196		茶屋ちびっ子広場	豊川市伊奈町茶屋1	
上新切中公園	豊川市一宮町旭75		平井ちびっ子広場	豊川市平井町水戸田11-1	
上新切西公園	豊川市一宮町豊37		小坂井住宅ちびっ子広場	豊川市伊奈町佐脇原500-99	
一宮錦公園	豊川市一宮町錦9		新町ちびっ子広場	豊川市伊奈町新町190-2	
一宮社公園	豊川市一宮町社157		白山ちびっ子広場	豊川市宿町白山85-1	
一宮幸公園	豊川市一宮町幸33		慶応ちびっ子広場	豊川市伊奈町慶応23-193	
一宮緑公園	豊川市一宮町緑61		中島ちびっ子広場	豊川市宿町中島109-2	
一宮栄公園	豊川市一宮町栄111		中野ちびっ子広場	豊川市小坂井町中野79-1	
一宮泉公園	豊川市一宮町泉52		八丁ちびっ子広場	豊川市伊奈町佐脇原415-266	
下新切広場	豊川市一宮町下新切65		前山ちびっ子広場	豊川市伊奈町前山1-175	
上長山コミュニティーセンター	豊川市上長山町東新屋12		美園集会所前	豊川市美園3丁目1-28	
上長山庭球場	豊川市上長山町下三手川48-1		新池公園	豊川市伊奈町一ノ坪1	
東山広場	豊川市上長山町大東原42-1		佐脇原ちびっ子広場	豊川市伊奈町佐脇原626-72	
江島ふれあいセンター	豊川市江島町北裏12-1		桜ヶ丘公園及び豊川高等学校グラウンド	豊川市桜ヶ丘町79-2	
いこいの広場	豊川市江島町三玉33-6		豊川公園	豊川市諏訪1丁目78	
金沢構造改善センター	豊川市金沢町金山19-2		豊川市消防署南分署(屋上の一部)	豊川市御津町下佐脇野先52-4	
篠田集落センター	豊川市篠田町割塚9-2		大草ちびっ子広場	豊川市御津町大草上竹83	
東上野球場	豊川市東上町炭焼9-8		御津西部保育園	豊川市御津町大草大森96	
大和ちびっ子広場	豊川市豊津町割田53-1		坪野公民館	豊川市御津町坪野六角14	
やりみず第一ちびっ子広場	豊川市大木町鍾水320-9		坪野児童遊園	豊川市御津町坪野新屋敷2-1	
大木1号公園	豊川市大木町新町通4丁目249		ケアハウス一見	豊川市御津町赤根山田12	
赤坂広場	豊川市赤坂町紅里133-1				

津波避難ビル

名 称	住 所	災害種別	名 称	住 所	災害種別	名 称	住 所	災害種別
豊川市消防署南分署 (屋上の一部)	豊川市御津町 下佐脇野先52-4		御津南部小学校 (南校舎2・3階、北校舎2階)	豊川市御津町 御馬加美15		小坂井西小学校 (北校舎2階)	豊川市伊奈町 鐘殿55-1	

編集・制作メンバー（敬称略・順不同）

○令和5年度桜町連区役員

- ・連区長 鈴川智彦
- ・副連区長 佐野秀男
- 同 林 洋司
- ・事務局長 門谷知卓
- ・蔵子区長 佐野裕昭
- ・小田渕区長 星川和雄
- ・農ヶ上区長 安藤裕之
- ・桜町区長 大場保雄
- ・野畔自治会長 福田初好

○令和5年度各団体等関係者

- ・防災推進協議会スタッフ長 古市修康
- ・豊川市消防団桜町分団長 鈴木隆太
- ・豊川市学校体育施設管理指導員 林 久仁

協力・資料提供

○豊川市危機管理課

令和5年6月 豪雨災害記録誌 令和5年12月発行

編集・制作・発行 豊川市桜町連区

〒442-0843

豊川市桜町3丁目1番地5

桜町地区市民館内

TEL/FAX 0533-85-9617

URL <http://www.ccnet-ai.ne.jp/sakuramachirenku/>

桜町連区ホームページ



編集補助 編集プロダクション ルート66 由本 裕貴

デザイン a t w i l l

印刷・製本 株式会社 豊橋印刷社